

の際には、教師の助手として上級生を使用するのである。兎に角、ワート視學の新方案は、各部の作業に互つて、特に興味と能力とを有する一組の上級生徒を選び、そして彼等を各部の教師の助手として使用するといふ仕組みになつて居る。斯かる方法に據つて行へば、常に生徒に對して指導的能力や自發創意の力や、進んで責任を採る能力などを發展せしむる最上の教養を與へるのみならず、更に教師の勞力を省き、そして餘分の教室も、餘分の教師も置かずして、立派に多數の小さな學級を編制し且つ教育することが出来るであらう。

斯く述べ來れば、教師の立場から言つても、ゲリーリ式の教育は諸種の方面に於て教師の神經過勞と、實地教授の責務とを軽減し、そして歸宅後答案調べ等の仕事の壓迫を除去するの利益があるからして、普通の學校の教師に比べては在校時間が僅かばかり長い、その埋め合はせは、無論十分に出来るばかりでなく、却つて餘計の利益があるからである。而かも、此の在校時間の長いといふことは、取りも直さず、俸給が餘計であるといふ意味合ひのものであるから、どの道、ゲリーリ式の

學校教師は總べての方面に於ける優勝者であり、有利の立場に在るものといはねばならない。

在校時間の長きと課業の種類が多いのは生徒の負擔過重を招く

との批難の不當なるはゲリーリ學校の生徒の學校を怠けるものの

率の小なる事實に依つて證據立てられる

次に、ゲリーリ式では、一日の在校時間が長いのと、課業の種類が雜多であるとの爲めに、生徒の負擔過重を招くものであるといふ理由で以て批難するものは、次の事實を能く考へて見れば、其の批難の到底支持すべからざることを覺るであらう。即ち、ゲリーリの『在校時間』なるものは、唯だ單に普通の公立學校の在校時間を延長したやうなものではなく、實に、其の在校時間を延長しなかつたならば、兒童は或は面白からざる感化を與へるところの大通りや横町かで其の時間を過ごしたり、さもなければ、家庭にてぼんやりと暮らすに違ひないから、そこでゲリーリの學校では、

其の時間を遊戯、運動、及び手工作業等の健全なる活動に専ら獻げて居るといふ意味合ひのものに外ならない。

前にも述べたる通り、此の増加されたる活動は、決して普通の學科を犠牲にして設けられたるものでなく、普通の學科の時間を割いて、其の作業を取らせるのではない。全くそれは普通には兒童の勝手放題に委せらるべき餘分の時間に於て、兒童に興味ある作業及び活動を營ましめるといふ意味にて加へられたるものである。尙ほ、ゲリー學校の自由なる爲め、又學校と家庭、教會其他との不斷の聯絡協働が行はるゝ爲めに、生徒が學校を怠けるやうなことはないと思はれる。現に、千九百十四年十一月に於けるゲリー學校出席の百分率は、男生九十二パーセント九、女生九十一パーセント六を示したのであるが、今日大抵の都市に於て學校を怠ける少年が遙かに多數に上つて居る事實と比較考量するならば、實に驚くべき好成绩を示せるものと言はざるを得ない。尙ほ、千九百十三年より同十四年にかけての出席率を示せば、男生は八十九パーセント五にして、女生は八十九パーセント二である。

ゲリー學校の職業的作業は生徒を私用に供し又は生徒にとつて

餘りに早きに過ぐとの批難に對する答辯

次に、ゲリー學校に對して、工場作業は生徒を私用するので危険性を持つたものであるとか、又は餘り幼少なる時分から生徒に手先の作業を與へ過ぎるものであるとかいふ理由に基ける批評は、其の實、ゲリーの手工作業は實際に於ては専門化せざるものであり、又極めて徐々に自然的に其の作業を兒童の生活に導き入れるからして、兒童には殆ど作業として氣付かれず、感ぜられざる種類のものであるといふ事實を看過したる批難である。即ち、ゲリーの學校では、『遊戯』と『作業』とは渾然として所謂『興味ある活動』に融會して居るから、兒童は殆ど無意識的に此の作業に熱中して居るのである。尤も、此の作業は後年に至つて、或は彼れの職業となるやうになるかも知れぬが、現在は然か意識してやつて居るのではない。たとひ、それが後年兒童の職業となるとも、又はならぬとしたところで、兎に角、ゲリーの學

校では、斯かる作業は總べての兒童の教育上、誠に結構なものであると考へて居るのである。ゲーリッ學校に於ける此の新式なる工場作業を目して、現に所謂産業教育の問題を解決するものと爲すところの教育者は、決して少なくない。

勿論、今日夫れ夫れ専門的なる工業中學に於て見る如く、學科の課業と全く分離して工場作業を課するやうな學校に在つては、所謂筋肉労働者と頭腦労働者といふが如き誠に非デモクラティックな、そして忌まはしい區別を立てるやうな非常の危険があることは争はれない。又、かの紐育市に於けるイッティンガー案（後に記せる註釋を見よ）の如く、所謂「豫備職業教育」といふ豫備的課程を設け、そして、第七級及び第八級に於て、將來夫れ夫れ職業に従ふべき生徒をば、勿卒極まれる實驗に依つて、如何なる職業に従ふのが、其の生徒の傾向に適するかといふことを決定するやうな組織、方法に在つては、其の職業的作業は學科の課業と少しも同化融會されることなく、従つて兒童は編狭なる専門家にまで教養し上げられるといふ非常な大危険が伴ふであらう。斯かる「職業教育」こそ、餘りに「功利的」なる教育に反對する

論者が彼れ是れと批評する其の總べての批評を甘受する資格が十分あるものと言はねばならない。

然るに、ゲーリッ式の職業教育は、産業的作業をば絶えず普通の學科を初め他のあらゆる活動と密接なる聯絡を保たしめ、それを學校といふ社會生活の眞に修養的なる一分科と爲すやうに努めて居るのである。而して兒童は實際の職工の下に下級の時分より技能と興味との基礎を築き、そして作業するのであるから、之れを實際的見地から見るとは、彼等の職業教育は、各種専門の職業學校が兒童に與へんとするものと比較して、或は優れるものでないとしたところで、少くともそれと同様に結構なものであるといふことが出來よう。そのみならず、ゲーリッの學校には、極めて整備せる各種職業學校が供給し得るよりも尙ほ多種多様な工場を、實際に於て經營して居るのである。尙ほ又、日中の課程と夜間の補習課とが聯絡を保つて居ることや、科學を非常に尊重して居ることや、總べての作業の社會的關係及びゲーリッ市の實生活に對する關係に重きを措くといふことなどは、總べてこれ等一般の公立學校

に實施されて居るものよりも、一層優秀なる職業教育を與へて居ることの何よりの證據であるといはねばならぬ。従つて、ゲーリリ學校の生徒にして、若し聰明であるならば、將來彼れはかの偏狹なる教育を受けた職工よりも熟練せる職工たるの資格を一層よく得る譯である。

ワート視學は斯く言つて居る。曰く、『今日は技師の時代、機械の時代、而して大産業の時代である。故にゲーリリ學校の職業教育は現代の産業及び商業に適合せる類ひの産業的並びに商業的教育の便宜を與ふるものである。而して此の學校に於て、既に大産業の問題及び機械の問題が存するのである』と。扨て、此の學校の社會生活中に進化發生せる諸問題は、『ワート視學に従へば、實に狭く各種の職業教育に熱心する各種職業學校に於て與へられる教育よりも優秀なる教育を與ふるものであるといふ。しかのみならず、此等各種職業學校では、只管收支が償ひさへすればよいといふので、大きな學級に於て教授されるといふ不便があるが、ゲーリリの學校にては小さな學級に於て、否各生徒個別的にさへも職業教育が與へ得るやうになつて居るのである。

前にも言つた、『ゲーリリ學校に關する報告書』を書いたバロズ・ファーンツ女史は尙ほ次の如く言つて居る。曰く、『若しも吾々が職業教育をば、専ら或る職業に對する専門的教授に限るものと考へ、而して、こは各種特設の職業學校に於て行はれねばならぬもの、又、一般教育は單に修養の片鱗をそれに添へるものにしか過ぎずして、それ以上には職業教育と一般教育とは何等の關係も交渉もないものと考へるならば、ゲーリリの學校には何等の職業教育も存せすと考へるであらう。之れに反して若し吾々は十六歳以下の兒童が要求する職業的作業が、不適切なる小學教育の上級に於ける専門的なる職業教育ではなくて、絶えず科學と學科課業と密接なる聯絡を保ち、そして學校全體の諸多の活動中の一に屬するが故に眞實のもの、不自然的ならざるものとなつて居るところの基本的な産業教育なることを信する仲間であるならば、吾々はゲーリリの學校を參觀して、凡そ其處に行はるゝ職業的作業は、實に十六歳以下の兒童の職業的作業としては米國全土の如何なる處に於ても他に之れを見

るを得ざる最も健全なる識見と、最も實際的なる成功とを表示せるものであらうとの感じを懐くであらう」と。

前に言へるイツテインガー案とは、紐育市の視學イツテインガー氏の考案なるものであつて、小學校の第七級及び第八級の二級に對して所謂豫備職業教育を授くる案なることは、前述の如くである。イツテインガー氏は千九百十四年六月紐育市長ミツチエル氏等と共にゲーリー學校を視察し、同年九月以來紐育市の數多の小學校に此の案を試みたのであるが、氏の此の案は言はゞゲーリー案の折衷である。第七級及び第八級の兒童にして將來直ちに各種の勞働にたづさはらんとする者を、一々其の能力及び向不向を實驗し、工業の基礎的型式を授くることを目的とするものである。即ち、生徒は學科の課業を繼續して學ぶことも出来るが、其の欲するところに従ひ、延金細工、鉛管作業、機械、建築、工藝、模型、電線、印刷、ペンキ塗、意匠、裁縫、女帽子、製本等の中から選擇して夫れ夫れ學ぶものである。而して、作業は一日に三時間乃至一時間を行ひ、一學期間同一の作業を爲さしめ、終了の後、他の作業に移らせ、そして職業上の廣き經驗の基礎を得させるものである。兎に角、一定期間兒童をして作業を爲さしめ、又、其後それを轉換せしめ、斯くして兒童各自をして最も興味ある作業を見出さしめるもの、斯くして所謂兒童をして自己を發見せしめ將來に於て従事すべき職業の具體的基礎を造り、職業の豫備たる役目を爲すと、この教育である。尙ほ、此のイツテインガー案と關係の有無は兎に角、デューイ教授の『明日の學校』

に據れば、シカゴ市の工業中學校等にも、此の豫備職業課を設け、第六、第七、第八の三級（小學校の）の生徒に書物上の課業も授けるが、大體は職業的作業の教練を爲さしめ、中學校の機械装置を利用せしめて居るといふことである。而して、此の豫備職業課を卒へたるものは、右の工業中學校に進むやうになつて居る。尙ほ、此の豫備職業教育に就いては、コランピア大學のストッテン教授が昨年著述せる『職業教育』と題する著書中に稍々詳細に述べられて居る。最後に此のイツテインガー案に就いては、横山奈良女高師校長のゲーリー式を紹介されたる有益なる一文より抄録せるものである。

宗教教授を教會に一任するは却つて宗教を公立學校に引入れるものなりとの批難

紐育市に於ては、現にゲーリー式に則つて大仕掛けの實驗を試みて居るが、ゲーリー式が教會を初め其の他、學校外の諸機關をば學校と協働せしめ、學校が與へ得ざる特殊の作業や、娛樂や、又は教授を爲す爲めに、一週間二三時間學校の生徒を其處に引率することを得せしむるといふ方案を採ることに就いては、非常の議論が湧いたといふことである。即ち、此の方法によれば、公立學校に宗教の楔を入れること

になりはしないかといふ心配が生じた譯である。

然し、ワート氏の考案したところによれば、ゲリーリ式は何等宗教教授に對する命令書を持つて居る譯ではない。換言すれば、それは如何なる教會の活動そのものとは何等の拘りを持つて居らぬのである。唯だそれが爲さうとするところは、市の兒童保育機關と學校との聯絡協働を計らんとするに在るのである。一日の在校時間を延長した爲めに、一時間丈けの時間は専ら學校の自由裁量に置かれてあるのである。が、若し此の時間を學校が利用することをしなければ、都市の兒童は、或は街路に費したり、或は家庭に、或は教會に、或はセトルメントに此の時間を送ることであらう。そこで、ゲリーリの學校が何んとかして、此の時間を組織立つたものとし、そして規則立つて利用したいものと考へて居る譯である。斯くして、兒童をして此の時間を、或は學校の運動場か、又は講堂にて送らしめるか、さもなければ、兒童をして健全なる活動を営ましむる設備のある學校外の機關に於て過ごさせるやうにするのである。

兎に角、其の目的は、市の種々なる機關を總べて學校と聯絡せしめ、それに依つて、現在の如く頗る不規則的、無組織的ではなく、規則的に又、積極的に生きた働きをそれらの機關に営ましめようとするに外ならぬ譯である。そこで、ゲリーリの學校では、凡そ兒童の幸福を増進せんと稱するあらゆる機關に對して、有效なる活動を營むの機會を與へて居るのである。斯くして、一體如何なる種類の家庭、教會及び隣保館(セトルメント)の活動が兒童にとつて有益なりやとの問題が、初めて市民一般の論議に上ぼるやうになつた譯である。

ゲリーリ學校の宗教に對する態度並びに教會にて宗教教授を受くる生徒

斯くの如く、教會なるものは、ゲリーリ式の方案では、唯だ單に市の一機關として認められるに過ぎないのである。然し、學校生徒の親達が宗教教授の價值あることを信するものが、可成り多數ありとすれば、苟くも眞に公共的公立的たらんとする

公立學校としては、此の目的の爲めに児童を許すことを拒絶する譯には行かぬものである。恰も、これ児童の爲めに運動場や、セトルメントや、圖書館や、家庭の音楽教授や、又は他の教授を許可すると同じ道理ではないか。然し、此の學校外の教授の爲めに、學校の學科時間を割くといふことはしないし、又、生徒を街路に遣つて、教會や其の他の機關の手に依つて世話されるやうなこともしない。生徒は其の親達の公然たる願書を學校に差出さざる限りは、決して學校外の教授を受けることを許可されない。若し親達から右の願書が出なければ、生徒は作業學科及び遊戯運動の爲めに、七時間乃至八時間といふ規定の時間を立派に學校で過ごすことになつて居るのである。

兎に角、宗教教授に關する責任は、全然、親達と教會とが負擔して居るのであつて、教師は此の事柄に對して何等の關係を持つて居らない。即ち、教師は生徒を組分けして、どの組の生徒をどの教會に遣るといふ風に一々指圖したり、監督したりするやうなことをしないのである。従つて、ゲトリリ學校の此の實際のやり方が、其

の理論に一致しないといふ恐れは殆どなからうと思はれる次第である。現にワート氏の告ぐるところによれば、初めブラフトン及びゲトリリを通じて十二年の間、氏の考案たる例の作業兼學習兼遊戯運動の學校を實施し來つたが、漸く近頃になつて教會が氏の學校を利用して、宗教教授を與へるやうになつたといふことである。最初からゲトリリ式の學校に教會が手出しをしたのではない。して見れば、此の教會の宗教教授が、不當にも學校に對する宗教の影響宗教の力を増すものであるといふ考へは、謂はれなきものと思はれるのである。

事實、ゲトリリのジェファーン・スクールに就いて見るに、千九百十五年の春の調査によれば、種々なる教會に出席して、兎に角宗教教授を受けつゝある生徒は、全校生徒の半分にも満たぬほどである。一體、此のジェファーン・スクールは、ゲトリリの學校中で、ワート氏の案を一番長く實施して居る學校であるし、それに市の如何なる宗派も宗教も、一番熱心に宗教教授を此の學校の生徒に與へようとして居るのであるが、それでさへ尙ほ且つ全校生徒の約半分ぐらゐしか宗教教授を受けて居るも

のがないといふ有様である。又、紐育市でワート案を實施して居る學校の中の一方では、五六の教會が此の新案に應ぜんとして非常の努力を爲したにも拘らず、宗教教授の許可を受けたる生徒は、其の學校の生徒全體の半數にも満たぬのである。尙今一つのワート案の學校では、生徒の親達に宗教教授の要求が少しもないので、一人の生徒もそれを許されて居らぬ現狀である。此等の事實を見ても、ゲリーリ式は宗教の勢力を學校内に引き入れるといふ批難は、何等の根據もなきことが分かるであらう。

ゲリーリ式は唯だ單に學校と教會の公明正大なる聯絡協働を計らんとするものである

斯く見れば、ゲリーリ案の期するところは、宗教を學校内に引き入れんとするものは決してなく、却つて、ゲリーリ案に依つて初めて、宗教を學校外に引き出さんとするに在りと言はねばならぬ。今日の狀態では、教會と學校との關係は闇に隠れて判

然して居らない。そこでゲリーリ案は、實に二者の關係を明るみに出したものである。學校と他の總べての市の機關との自由、公正、公然の關係を確立することは、今日極めて肝要なことである。苟くも兒童に價值ある活動を提供せんとする機關は、斯かる關係の確立の爲めに寸毫も損失するところはないであらう。然し、如何なる外部機關の力も、此の關係を確立せしめたる公立學校を全然支配し得るものでもなく、又、一部分でもそれを左右することを得ないものである。

以上、ゲリーリ案に對する各種の批評に就いて述ぶるところがあつたが、尙ほ幾多の細かい批評もない譯ではない。然し、それは以上の叙述に依つて自から分明すると思ふから一々それを述ぶるの邊がない。尙ほ後に掲げたるブトマン氏の『ゲリーリ學校見聞記』なる一文即ち第十二章ゲリーリ式適用と教授者の注意の一章を讀まれんことを希望する。

第十章 ゲイリリ學校と米國文部省

米國文部省の調査報告と同省長官クラクストン氏のゲイリリ學校賞讃——結局ゲイリリ學校とは如何なる學校なりや其特色及び本領の要略——シンシナナイ大學師範部長パリス氏のゲイリリ學校に對する評價十二個條(一)從來の學校に比して巧妙なる校舍の利用と經營上の大經濟——(二)普通學科と特別課業との區別配當が從來の學校よりも巧妙優秀なる點——(三)兒童の能力如何に従つて學科の手加減を爲す餘地が從來の學校よりも一層大なること——(四)専門分科教授と一層優良なる教授の可能——(五)遊戯運動の時間を一層善用することを得——(六)實際の職工を工場作業の教師と爲し以て作業を一層眞實化せしむる——産業的能率の見地より見たるゲイリリ學校の職業教育の價值——(七)兒童の健康増進の機會を多からしめ——(八)學級的進級法を採らず學科的進級制——(九)生徒互助の教授方法を採らしむる組織として例の助手兼見學者の制と爲す——(一〇)小學校と中學校との間隙を無くし大事な時に學校を退くの弊を除去する——(一一)教師に對する待遇法の改善を計り——(一二)市の教化的公共機關との協働を爲す——ゲイリリ學校は固定停止の機構にあらず動的有機體乃至胎芽的社會なり而して一個の實驗學校である——(結論)ゲイリリ學校は民主的教育上に一新紀元を創し眞に萬人平等の國民教育たり公立學校たるの理想を實現す

米國文部省の調査報告と同省長官クラクストン氏のゲイリリ學校賞讃

ゲイリリ學校の異常なる成功は、米國各地の教育者間の熱心なる興味の焦點となり、忽ちゲイリリ學校をして教育界のメッカたり、巡禮の聖地たらしめ、參觀者視察者並に實地見學者日に月に接踵相繼ぎ、獨り米國全土のみならず、我が日本を初め諸外國より此の學校を訪問する者日を追ふて加はるに至つたのである。そこで、米國文部省へ米國文部省は其の實内務省の一局なれば、内務省内教育局といふが正確な言ひ分である。我が文部省の如く獨立せる一省ではなく、又、文教の中心、文政の中央集權所でないことは、讀者の承知するところであらう。唯だ米國各州よりの調査報告を蒐集し、總括して發表するところに過ぎない。近來例の米國化政策の必要上、教育局を擴大して、直ちに米國全土の文政文教の統轄機關と爲し、米國教育の中央集權制の必要等を唱道する所謂「ミス・トリーナー」案なるもの米國の議會に提出

されたりといふ。今暫らく米國文部省と俗稱することとするは、千九百十四年、前後二年間に互りて『親しく綿密にして長時日の研究』を爲し、ゲリー學校に關する報告書を發表して居る。

此の報告はシンシンナテイ大學の師範部長ウイリアム・バクストン・パリス氏の手になり、『インディアナ州ゲリーの公立學校組織』と題し、千九百十四年米國文部省報告第十八となつて現はれ、頗る熱心にゲリー學校を賞讃せる優秀なる報告である。其の後、千九百十五年に至りて、更に『米國文部省長官報告』第二十七より第三十、尙ほ其の翌千九百十六年の同報告第四十二より第四十五中にも、ゲリー學校に關する調査報告が載せられて居る。吾々は次に千九百十四年のパリス氏の報告書に於て如何なる評價をゲリー學校が得たるかを述べようと思ふが、尙ほ此の報告中に、米國文部省長官クラクストン氏が、ゲリー學校に對する意見を披瀝して居るのを見通がす譯には行かない。氏曰く、『ゲリー諸學教の視學及び教育課は、學校の資金を一層經濟的に使用し、兒童の時間を一層充實的に又一層有效に使用し、學校の課業を個

個の兒童の事情並びに要求に一層善く適合せしめ、教授監督上に一層大なる經濟を計り、學校の所謂普通學科と特別作業との一層良好なる關係聯絡を取り、一層實際的なる類ひの實業教育を授け、且つ又、米國の都市に於ける公立學校にて普通見らるるものと比べて殆んど不可能なりと思はるゝばかりの少額の經費を以て經營する爲めの方案を物の見事に實施したのである』と。以て米國文部省が如何なる見解を以て、ゲリー學校に對するかを窺ひ知ることを得るであらう。クラクストン氏が前にも言へる如く、昨年九月九日の倫敦タイムズ教育附録中に載せたる『米國は如何なることを爲しつゝありや』なる一文中に、今後、米國が一層努力せざるべからざる方面として、第一に保健並びに體育を擧げ、第二に一層優秀なる市民の準備、第三に一層博大にして一層有效なる職業教育等數項を列擧し、更に中學校教育の普及を力説せることと彼此相對照する時は、吾々は右のゲリー學校に對する同長官の讚辭の決して單なる御世辭にあらざることを深く諒知するを得ると思ふ。長官のゲリー學校に對する賞讃の辭は、決して偶然に發せられたるものではない。

現に、コロンビア大學教授(前のマッサチュウセツ州教育長官デヴィッド・スネッデマン博士も、ゲリーリに於ける學校組織は、『余の知れる如何なる他の學校組織よりも一層よく都市の兒童の要求に適合する』と賞讃せるが如き、偶々米國に於ける教育行政の權威者の見解を窺ふに足るものがある。今、米國文部省の報告を述ぶるに當り、少しく、ゲリーリ學校そのものの真相を略述して、結局それは如何なるものなりやを豫じめ要約して見よう。

結局ゲリーリ學校とは如何なる學校なりや其の特色及び本領の要略

斯く見來れば、ゲリーリ學校は一言に之を盡して、次の如く言ふことが出來よう。(一)それは元來下は幼兒依託所より上は大學に至までの總べての年齢の兒童の爲めの學校といふ一個の共同社會にして、作業、學習、遊戯運動及び表現の四種類に分ちてあらゆる健全なる活動を兒童に授くるものである。(二)其の眼目とするところは即ち、一日正味八時間の課業に依つて、成長し行くところの兒童の爲めに最善の寰

境たらんことを期するに在る。(三)而して、此の學校と云ふ共同社會は舊時に於ける家庭及び學校が與へたる教育に代つて、出來得る限り自營自活の共存團體たらんことを心掛け、學校に於けるあらゆる活動をば、學校の社會生活の安寧幸福に資せしむるやうにして居る。(四)公共事業經營の原則に據つて學校のあらゆる設備、あらゆる機關を多種多様に利用するが爲めに、普通の公立學校に比して少額の經費を以て斯かる學校を經營することが出來るのである。(五)而して、此の學校設備の多種多様の利用より節約されたる費用を以て、ゲリーリ學校は一年中、兒童は勿論、大人の爲めに娛樂及び教育の機會を與へ、教師に高給を支拂ひ、且つ全然例の二部教授の問題を解決することを得るのである。(六)ゲリーリ案は學校を以て地方社會の教化的中心となすものである。而して公園、圖書館、博物館等を初め、凡そ兒童に對して健全なる各種の興味を提供する他のあらゆる機關、あらゆる活動をば、總べて之を學校の教育上に貢獻せしむるやうに活用させるのである。(七)故に、此のゲリーリ學校にして初めて純然たる所謂『社會的中心』たりと言ふべく、又、未だ嘗て殆ど理解さ

れざるほどの廣い意味にての純然たる『公立學校』と言ふことが出来る譯である。

シンシナティ大學師範部長ハリス氏のゲリー學校に對する評

價十二箇條(一)從來の學校に比して巧妙なる校舎の利用と經營

上の大經濟

ゲリー式に對して、從來幾多の人に依つて幾多の讚辭を寄せられ、デューイ教授の如きはワート氏の方案は教育界に於ける一大發明にして、時と勢力とを節減する工業上の發明に比すべく、學校課業の融通の利くこと、又、社會の必要に適應することの如きは、他の學校組織に於て見ることの出来ないところであると言つた(横山氏紹介文に據る)。その他、コランピア大學のスネッデン教授(前マッサチュセツ州教育長官)、シカゴ大學のポビット教授、米國教育局長クラクストン氏の讚辭は、何れも前述したる通りである。然し、最も多方面に互りて包括的に、仔細に評價せるものは、實にシンシナティ大學師範部長ウィリアム・バクストン・パリス氏が、千九百

十四年米國教育局の報告書第十八に於て述べたるものである。氏の意見に従へば、ゲリーの學校組織は、左記に列擧する十二箇條の長處美點を有するのといふのである。今、逐次之れを述べて見よう。

『第一に、一年中日中でも夜間でも、土曜日でも校舎を巧妙に利用する。而かも此の爲めに費さるゝ金額は非常に節減することを得せしむるものである。』

扱て、此の學校設備の多種多様な利用に依つて、非常に經費を節減して、而かも非常に教育的便宜を増加せしめ、且つ學齡兒童の過多なる學校區に在つても、總べの兒童に對して一日完全なる時間數の授業を與へるやうに仕組まれて居るのであるが、此の學校設備の利用といふ點が、一般に他市の教育關係者の非常に興味を感じたるところである。例の二部教授の問題に惱まされて居る教育行政家にとつては、此のワート案を試験するといふことは、殆ど肝要缺くべからざるものとなつて居る。如何なる教育者も、單に機械的なる學校行政上の諸施設に依つて、市の學校に在學せる總べての兒童の爲めに、一日完全なる時間數だけの課業を與へるのみならず、

實際には一日の課業時間を延長するところの此のゲリー式を等閑視する譯には到底行かない。實に此の一日の課業時間を延長し、すべての兒童に一日完全なる時間丈の課業を授けるなどいふことは、これまで都會地の大きな學校では不可能と考へられたところである。然るに、ゲリー式は大都會が年を追ふて益々困難を感ずるところの此等の問題に對して、容易なる解決を與へるものと思はれる。

(二) 普通學科と特別課業との區別配當が從來の學校よりも巧妙

優秀なる點

『第二は、舊式の課業と新式の課業、即ち普通正規の學科と特殊的諸作業との區別配當がこれまでの學校よりも一層巧妙優秀なるを得るの點である。』

ゲリー式は常に從來の學校よりも豊富なる教科目を教授するのみならず、各教科目、各課業の間に非常に好都合な、そして調和的なる釣衡がとれて居るといふ特色がある。理科並びに手工作業に一層の重きを措いては居るが、それが爲めに、ゲ

リー學校は、其の目的に於て餘りに功利的なるものとは決してなつて居らぬ。ゲリーの學校は、現に或る一部の教育者等が心配したやうな、『工場や製造場に化する』やうなことは斷じてない。多くの參觀視察者が一致するやうに、ゲリー學校は、實用と美とを反對なものと看做す思想の生きた否定者であり、生きた拒絶者である。エマソン・スクールや、フレイベル・スクールの如き新設の學校は頗る廣大な莊嚴なる校舎であつて、如何にも思慮を凝らせる幾多の趣味を發露するのを見れば、吾々は唯だ唯だ非常に財力豊かにして教養の深き郊外地に建てられたる中學校を聯想するを常とするのである。

その他、學校にて繪畫を陳列したり、音樂を教養せしめたり、表現に重きを措いたり、文學を教授したり、公立圖書館を組織的に使用せしめたりして居ることは、如何にもして教育の教化的乃至修養的側面を大に發揮せしめ、そしてかの一方のこれまた一層顯著なる特殊的作業と同様、學校生活の眞實の一部たらしめんとする斷乎たる努力を事實上に示せるものに外ならない。尙ほ例の應用作業は學校建物の美

觀を増すことに絶えざる用意と興味とを有することを忘れてはならぬ。ゲリーリに於ける學校生活が如何に實際の魅力あるかは、其處の温室や、花園を見たり、運動遊戲の光景を目撃したり、兒童の如何にも自由なること、少しの窮屈も過勞も混雜も紛亂もないこと、如何にも愉快に幸福に學校生活を送ること等を實地に觀察したり、又其處に行はるゝ演劇的表現を參觀したるものは、大概納得することの出来る次第である。實にあらゆる活動、あらゆる課業が、應用及び表現の如き實地の演出所作に依つて誘動せらるゝ學校、即ち、學習が實地に爲すことに依つて行はれ、單なる學科勉強に依つて行はるゝことなき、徹頭徹尾實際的なる學校に却つて頗る美はしき學校生活が行はるゝといふのは、如何にも一見逆理的とも思はるゝ次第である。

(三) 兒童の能力如何に従つて學科の手加減を爲す餘地が從來の學校よりも一層大なること

『第三に、あらゆる種類の異常特別の兒童に對して、夫れ夫れ適切なる學科を按排

する點に於て從來の學校よりも一層融通が利くのである。従つて特殊學校の必要が大に無くなる譯である。』

ゲリーリ式は殆どあらゆる種類の兒童にすべて適合したところの學校を造ることを得せしむるものである。それは決して兒童を學校に適合せしめようとはしない。そして若し學校に適せざる兒童あらば、それを自然の儘に委ねて學校より排除するといふことは斷じて爲さない。之に反して、ゲリーリ式は各兒童の夫れ夫れ異なる必要及び能力に學校を適合せしむるものである。斯かる學校は、實に種々雜多の能力があればあるほど其の能力を總べて發展せしむる學校であり、如何なる能力の兒童にも夫れ夫れ平等なる教育の機會を與へ得る學校であると思はれる。而して、斯かることは、到度普通の公立學校に於ては行はれざるところである。従つて、ゲリーリ學校に於て兒童の入學拒絶又は休學を餘儀なくされる理由は、殆んど全く傳染病の場合に限られるとも言ひ得るであらう。

若し單に兒童が身體薄弱であるといふ丈けならば、勿論總べての作業を營むこと

が出来ないからして、彼れは自分の出来る作業を爲し、そして恰も病人が健康を恢復する爲めに療養所を利用すると同じく、學校に在る他の設備乃至便宜を使用することを許されるのである。ゲリーリ學校の教授日程では、若し特殊の作業が其の虚弱の兒童にとつて一番適するならば、一日中それを爲すことを許してある。又、其の兒童の健康が恢復して、普通の學科を學ぶことが出来るやうになるまでは、戸外にて休息したり、或は監督付きの遊戯運動に一日を送ることを得るやうになつてゐる。低能兒童は手工作業で自分の出来るものを爲すことを許され、又、遲滞せる兒童は自分の興味を喚起するやうな作業を取り、次第に其の級の標準にまで進ませるやうにされる。實に、ゲリーリ學校の如き小學校では經費の多き露天學校や、低能兒學級を特別に設置したり、その他、各種専門の職業學校や、商業學校等の特設したりする必要が少しもない譯である。これ即ち、例の完全完備の學校社會の組織的生活に於て、兒童は殆ど自分の要求するものを悉く求めることが出来るからである。

(四) 専門分科教授と一層優良なる教授の可能

(五) 遊戯運動の時間を一層善用することを得

『第四に、教授編制上、専門分科的教授の方案を廣く普及するることの爲めに、從來の學校よりも一層熟練なる悪教授を爲すことを得るのである。』

『第五に、遊戯運動時間を從來の學校よりも一層善く使用するので、従つて學校の教育の効果を打消すところの種々なる悪影響を防ぐことを得るのである。』

(六) 實際の職工を工場作業の教師と爲し以て作業を一層眞實化せしむる

『第六に、職業的並びに産業的作業を從來の學校のそれよりも一層眞實なるものと爲すに努む。即ち、實地の労働者階級より雇用し來れる熟練職工の指導の下に右の作業を置く組織になつて居る。尙ほ此の職工教師は、其の方面の職業に堪能なると

同時に、人格及び教授能力優秀なるものを選ぶのである。』

産業的及び其の他の職業的作業の組織は少年労働者に向つて幾多の實際的利益を與へる。即ち、彼等は夜間の補習課を受け、仕事の暇々には日中といへども學校の工場に戻つて來て作業するの便宜を持つて居るばかりでなく、かの有名なるフィッチパーク方案(後に掲ぐる註解を見よ)に倣つて、學校と工場との協働的課程制度を設けしむる爲めの絶好なる實際的基礎となつて居るのである。ゲーリ學校に於ける規則及び教科目が融通の利くやうになつて居るから、少年労働者は労働の忙がしくない時には、學校の學科の授業に出席することを許され、若しくは、其の労働と學科出席とを今一人の少年労働者と半々に分けてやることも許されて居る。ゲーリ學校は、進んで一週間希望の時間數丈け、此等二部教授(少年労働者をして市の工場にて作業の傍ら、ゲーリ學校に來て、普通規定されて居る一日の時間數丈けの課業即ち八時間は勿論受けぬが其の一部分の時間丈けの課業を受くることをいふ)を受くる少年労働者の爲めに、特別教授を行ひ、若しくは彼等をして自己の創意に基いて

自由の作業を爲すことをさへも許して居る。千九百十四年には、ゲーリ學校には等二部教授を受くる生徒は約百人あるといふことであつた。

次に、年中學校の制は、少年労働者にとつて特殊の便宜を與へて居るのである。即ち、職業を見出す機會は其の爲めに四倍に増加する便宜がある。何故なれば、同時に總べての生徒を市場に送つて職業を見出さしめるやうな不便を感ずることなく、一年を通じて仕事を欲する生徒の四分一丈けで間に合ふこととなるからである。それであるから、或る産業又は職業に各一人の生徒が連続的に徒弟奉公たる必要はなく、四人の生徒が交互に代はることが出来る譯である。換言すれば、一人の少年労働者が年中労働に費し、學校の課業を受ける便宜が少しもないといふやうな不便がなく、四人のものが一年三十六週の課業を不足なく受け、殘餘の十二週間は、市の製造工場で實地の徒弟教育を受けるといふ便宜を得られるのである。斯くの如くゲーリ式に據れば、少年労働者は現代の學校教育と徒弟奉公との最大利益を一舉にして容易に得ることを可能ならしむるものといはねばならぬ。

註 前掲フィッチバーグ案とは學校兒童に實地生活の經驗を與へ、一方學科の學習と彼此相聯絡せしめ人生の正常なる經驗を與へんとする案である。而して、こはフィッチバーグ市に行はるゝ方法なるが故に此の名稱がある譯であるが、又、シンシンナテイ市に於ても之れと同様な方法行はれ、最初同市の大學に行はれたるものを、近來は中學、それより小學へと應用せらるゝやうになつたのである。シンシンナテイ案にせよ、フィッチバーグ案にせよ、兎に角二部教授學校又は二部教授課（學校兒童が交代に學校にて或る期間學習を續け然る後或る期間實地の工場にて作業するの制である。前節の本文に記されたる通りである。假りに二部教授の名を用ひ置く、原名バート・タイム）の制を採つて居るが、要するに學校に於て實地作業の經驗を兒童に與ふる便宜なき場合には、市の工場の如き學校以外の處に兒童を送りて此の機會を得せしむるやうにする方法を採れるものである。即ち、工場作業課を取る兒童をして、學年の一半をば中學の學科教室、實驗室及び附設の工場にて送らしめ、他の一半をば市の工場に送らせ、そして其處の職工長の指導の下にて賃銀を貰ひて實地勞働に服せしむるものである。而して、此の案は、市の工場に於ける或一つの仕事を二人の兒童に割り當つる方法を探り、甲の兒童が此の一週間は其の工場にて作業して居る間は、乙の兒童は學校にて學科を習ひ、一週間を過ぎれば乙の兒童が甲の兒童と交代に市の工場に行き、甲の爲しつゝありし作業を繼續してやり、甲の兒童は今度の一週間は學校に戻つて學科を勉強するといふ組織になつて居る。而して、土曜日丈は二人一緒に市の工場にて作業に従事する。前にも言へる如く、米國の學校は一般に土曜日は授業がないのである（ゲリーリ

校は例外なること、これ又前述の如くである。此の制度をコオペラテイヴ・システム、即ち協働制とも稱する。即ち、學校と市の工場との協働を意味するものである。以上は一昨々年公にされたシカゴ大學教育行政の教授フランクリン・ポビット氏の『教科目』（ザ・カリキュラム）に據つて記せるものであるが、氏は前にも言へる如く、夙に其の論文中にゲリーリ學校の科學的經營法の優れたる四個の特徴を擧げたる人である。尙ほ、シンシンナテイ大學、中學並びに小學に於て實行されて居るコオペラテイヴ・システムに就いては、編者は先年『教育學術界』海外教育欄中に委曲に互りて紹介したことがあるが、要領は此の註に記せるところに盡きて居る。更に詳細に知らんとせば前にも引川せるコランピア大學教授スネッタウン氏の『職業教育』を参照せられよ。

産業的能率の見地より見たるゲリーリ學校の職業教育の價值

尙ほゲリーリ學校の職業教育に附け加へて、廣く産業界に於ける能率の準備としての價值如何といふ見地からして、ゲリーリ學校が與ふる職業的産業教育に就いて、一言するところなければならぬ。先づ、ゲリーリ學校が手先きの作業をば、正規の教科の一部として組織立て、居るのは、實に各種職業學校の狭い専門化の弊を避けしむるものである。換言すれば、ゲリーリ式は唯だ或る一つの職業を爲すに適合せる産業

的機械の一部としての少年労働者を造り出すやうなことはなく、何にを措いても先づ第一番に固まらぬ融通の利く、變通自在の妙を要求し、而して、斯かる資格なきものは、どしどし振り落して了ふやうに、又、融通の利かぬ方法でも機械でも遠慮會釋なく反古や屑物扱ひにするところの、動的な、絶えず急激の變化を遂ぐる現代の産業界に、びつたりと應ずる資格を持つた少年労働者を、ゲーリリ學校は育成して居るのである。如何なる業務にでも直ぐさま従ひ得るやうな圓滿豊富なる教育と能力とを有する人でなければ、今日では到底群を抜いて出世する機會がないのである。舊式の公立學校が、其の目して所謂「自由寛宏」となすところの學科を教授して居るにも拘はらず、兎角、單に極めて低級劣等なる書物學問の専門家を造り上げる傾向があつたのである。

然るに、ゲーリリ學校の萬遍なく圓滿完備の課程を學んで産業社會に投ぜる生徒は從來の公立學校出身者に比して、比べにならぬほど自分の業務に敏活堪能であり、又、熱心なる興味を覺え、且つ其の業務の意義と價值とを一層識認して居る。實に、

ゲーリリ學校は今日最も必要なりとせらるゝ型の心意、即ち變通自在なる技師の心意を養成しようとする努力して居ると思はれる。換言すれば、如何なる業務、如何なる機械にも適合し、且つそれに精通し、それを支配する心意を養成せんとするのが、ゲーリリ學校の狙ひどころであるやうに思ふ。此の精密、融通の妙、創造的才能、製産額に依りて機械を判断する實用的資質、機械力をば、それ自身に於て目的と看做さず唯だ單なる手段なりとなす考、此等は實に應用科學に重きを措くところより生ずる心意の資格、心意の内容であるが、今日の社會が殆どあらゆる産業、あらゆる職務あらゆる仕事に於て最も要求する資格である。而して、ゲーリリ學校は此の種のタイプの心意を養成せんとするものである。

斯かるタイプの心意にとつては、一方に於て、所謂「修養」「教化」なるものは、人間生活の單なる周邊や、單なる裝飾ではなくて、眞に其の實質たり、また其の樞要部たるものであらう。何故といふに、それば夙に學校社會から繼續して、吾々の心意中に織り込まれてあるからである。他方に於て、熟練なる労働なるものは同じく

夙に學校時代に於て樞要部分となつて居るのであるから、決して價値の低いものとか、恥づべきものとかいふやうな考が起きない譯である。何れにせよ、ゲーリッ學校が養成する心意のタイプは、一方に於て産業的價値あると同時に、他方に於て獨得なる修養的價値を有するものなることは争はれない。ワート視學も『生徒をして本當の職工の指導の下に本當の仕事をして爲さしめ、而かも種々なる機會と便宜とを與へることは、他日生徒をして産業界に於ける適當なる地位を見出さしむる助けとなるであらう』と言つて居る。

(七) 兒童の健康増進の機會を多からしめ

(八) 學級的進級法を採らず學科的進級制

『第七に、兒童の健康を増進する爲のの便宜が從來よりも一層良好である。』
 運動遊戯を非常に多く課し、廣大な、そして衛生的なる學校建物を設け、夫れ夫れ専門の校醫と、學校看護婦(保姆)とが各其の職務に専ら従事して生徒の世話をす

るといふことは、生徒の身體的保健の増進にとつて必要な顧慮を決して怠らざる施設である。

『第八に、生徒をして自分の學級だけの課業をしか學ばしめざるやうな方法を採らずして、尙ほ他の學級に於ても課業を受けることを許し、且つ、學級を標準として進級せしむる方法を採らずして、學科本位の進級を爲さしむる組織となつて居る。』

(九) 生徒互助の教授方法を採らしむる組織とし例の助手兼見學者の制と爲す

『第九に、生徒をして相互に手傳ひ合ふことを可能ならしむる。』

かの『助手兼見學者』の制度は、常に生徒相互の間にのみ行はるゝにあらすして、學校内の教師相互の間にも行はれ、又、學校内の教師と外來見學者との間にも行はるゝことは、ゲーリッ式の最も價値ある特色を成して居るのである。それは全く普通に見らるゝ如き相互間の關係を一變せしむるものであつて、普通に見るやうな作業

に於ける競争的精神を一掃して協働的精神を誘起し、且つ生徒並びに教師の作業を非常に好都合ならしむるものである。兒童は從來の教室課業の儀式張つた、しかつめらしき遣り方で學ぶのとは全く反對に、如何にも世間普通に行はるゝ極めて自然の間に、他の爲すところを目撃し、そして質問したりして、所謂「摘み上げながら」學ぶのである。

(一〇) 小學校と中學校との間隙を無くし大事な時に學校を退く
の弊を除去する

『第十に、ゲーリの組織は小學校と中學校との間隙を撤廢し、且つ、生徒一生に於ける大事な時期に學校を退くといふ弊害を除去するものである。即ち、斯かる時期に際して、かの『普通學科』に専心不斷の注意を傾くることに依つては到底満足されないところの種々なる興味を喚び起す科目を學校に取り入れて、從來の退學の弊を除去するやうにするのである。』

出來得るところでは、感るべく同一校舎内に總べての級を併置するといふゲーリ式は、他の土地にて廣く實驗されて居るところの、かの乙種中學校の如き巧妙なる計畫よりも一層上手に小學校と中學校との間隙を撤廢するものである。

註 乙種中學とは米國に於ける新たな試みの一つであつて、近來喧ましき議論のある問題である。即ち、米國では小學校八ヶ年、中學校四ヶ年、都合十二ヶ年であるが、この八四式を小學校六ヶ年、中學校を分ちて乙種中學校三ヶ年、甲種中學校三ヶ年に編制改へをするといふ所謂六・三・三の案が出て居り、現に可成り廣く行はれて居る。小學校の上級程度と中學校の下級程度とを合せ、多分に職業教育を加味せしめ、社會的並びに個人的要求に應ずるやうに仕組み、それに依つて、小學校丈にて學校を退くといふ弊を除かんとするものである。所謂六・三・三案の中央の三年が即ち、此の乙種中學校なるものである。米國教育局長クラクストン氏が昨年九月九日の倫敦タイムズ教育附録中に掲載せる論文に依れば、合衆國男女兒の約三分の二丈が小學全課程を修了し、約三分の一丈が中學校に入り、又八分の一餘が四ヶ年の中學課程を修了すると報ぜられて居る。而して中學教育の普及を一般的ならしむる必要ある事を論じ、右の六・三・三案を以て各個の兒童の要求に學校を適合せしむる上に一層良好なる形式なりと言つて居る。尙ほ乙種中學校に就いては一昨々年發行の組育師範學校ロツピンズ氏の『社會的設備としての學校』及び一昨年五月『教育評論』誌上ゴスリンガ氏の論文等に據つて紹介したのである。

ゲーリリの學校は極めて生徒の執着力を持った學校組織であつて、其處には生徒をして學校を退かしめるといふ何等の誘因がないのである。何故といふに、學校には極めて種々雑多の異なる能力と興味とを有つた總べての生徒の總べての要求に應ずる設備が施してあり、彼等の要求する實際的なる職業教育を授け、學校を出ても、一方學校を繼續せしめつゝ、半分の時間丈けは、實地に勞働することをさへも許して居るからである。然るに、米國の公立學校では、生徒の半分は決して第六級以上に進まずして退學するといふ有様になつて居つて、所謂『生徒死亡』（生徒が學校を半途退學することを然か名づく）の問題は、斯くゲーリリ學校の如く、各個の兒童の要求に應ずるやうな立派な仕組みになつて居る學校では、殆んど自動的に避け得らるることである。ゲーリリ學校が如何に生徒を學校に引き止むる上に成功して居るかといふことは、次の事實に現はれて居る。即ち、ゲーリリ學校が創設されて以來未だ短日月なるにも拘はらず、ゲーリリ學校に於ける中學級の生徒の比例は、紐育市の學校に於けるそれに殆ど二倍丈け大であるといふことである。

(一) 教師に對する待遇法の改善を計り

(二) 市の教化的公共機關と協働を爲す

『第十一に、教授監督者等に對する一人當ての負擔を輕減することに依つて、教授の費用を節約し、それを以て教師の俸給を増加するか、若しくは教師一人に對する生徒の數を減するか、或は又二者を一緒に行ふか何れかの方法を探るのである。』
『第十二に、經營上の經濟及び能率を以て、學校が市のあらゆる娛樂的乃至教化的機關と合體し、それらと協働するの案である。』

ゲーリリ學校は固定靜止の機械にあらざ動的有機體乃至胎芽的社會なり而して一個の實驗學校である

以上に列擧せるパリス部長の價值評定は、實にゲーリリ學校の種々なる側面を要約したものであるが、何れもこれ實際教育家の興味をそゝる底のものに外ならない。

吾々の銘記せざるべからざることは、ゲリー學校は決して一個の固定不動の組織でもなければ、又は一個の靜止的なる、そして完全終極せる機械でもないといふ一事である。其の主なる價值は、實にそれが變化と發展とを促進せしむる伸縮自在、變通自在なる課程と便宜とを供給する點に存するのである。其の教科組織に於ける細項、若しくは行政管理の細項に關する一々の事例は、要するに試験的のものであることを忘れてはならぬ。蓋し、ゲリー學校は、其處にて何人も絶えず終生研究し且つ學習するところの一個の實驗學校であるからである。

斯くの如く、ゲリー學校は一個の成長し發展して止まざる有機體である。而してその成長發展の限度如何は、一に教師及び生徒の活用的想像力の如何に依つて決するのである。此の活用的想像力が無限に底止するところなくんば、學校有機體の生命は無限に發展成長する譯である。如何に立派なる裝置設備が整つて居つても、それだけでは其の生命、其の活動は極めて幼稚下級のものたるを免れない。換言すれば、優秀なる設備を以て着手しても、教育活動は唯だ僅かに開始されたといふに

過ぎぬ。眞の教育とは、其の裝置設備を活用するに在り、又、絶えず活用的想像力と表現力とに訴ふるに在るのである。斯かる學校に在つてこそ、初めて教育的富力の養成は無限に行はれるであらう。又、斯かる學校こそ、デューイ教授が學校の理想として言ひ表はせる所謂『胎芽的なる社會生活』たり得るであらう。即ち、此の小社會、此の縮寫的社會に在つては、兒童は親しく實地作業を營みつゝある間に、他日進んで入るべき大人の社會の業務並に興味を實際に感得しつゝあるのである。

(結論)ゲリー學校は民主的教育上に新紀元を劃し眞に萬人平等の國民教育たり公立學校たるの理想を實現す

以上述べ來れるところに依つて、吾々はゲリー學校が、實に成功せる運用の法を確立して、次の諸點を見事に成し遂げたる最初の公立學校組織なるが故に、其の國家的乃至國民的意義を帶べるものなることを斷言し得るであらう。即ち、第一に、それは都市學校の緊急にして、而かも一見解決至難なる幾多の問題を解決するを得。

第二に、變轉極まりなき産業的並びに社會的事情と歩調を合せ、且つあらゆる種類の兒童に對して學校を適合せしめ、第三に、現代最良の教育的企圖を打つて一九となし、且つ從來教育家が總べての兒童に向つて提供せんとして果し得ず、唯だ僅かに非常の經費をかけて都市の年長上級の學生に漸く與へ得たる諸般の教育的便宜を都市の總べての學校生徒に提供し得、第四に、民主的教育の進歩の上に一新紀元を劃し、第五に、年中晝夜を問はず間斷なく、總べての人々に對して總べての時間を提供する點に於て、眞に公立學校たるの理想を實現し、第六に、其の簡單なる組織及び巧妙なる經濟的經營の點に於て、大小如何なる都市の模倣及び適合の實際的活模範となれる等の諸點に於て、ゲーリリ學校は確かに重大なる國家的意義を有するものなることを斷定し得るのである。

第十一章 紐育市に於けるゲーリリ式適用

紐育市はワート視學に依囑してゲーリリ式の適用を立案指導せしむ——紐育市ブルックリン第八十九公立學校の組織改造に關するワート視學の報告——X學校——Y學校——紐育市プロンクスの諸學校の組織改造に關するワート視學の報告——諸學校に就いての記述——第二十八公立學校——第五公立學校——第三十二公立學校

紐育市はワート視學に依囑してゲーリリ式の適用を立案指導せしむ

前にも言へる如く、ゲーリリ學校の評判は頗る高まり、米國各地は言ふまでもなく世界各國より此の學校を實地參觀視察するもの日に月に増加し、希望の教師はゲーリリ學校教師の助手として實地授業に當り、實地の講習を受くる便宜を有することになつて居る。従來、此の學校を參觀視察せる者、實に五萬人に上り、一日平均二百人以上に達するといふことである。豫ねてより生徒過剰の問題に苦しみ、種々の瀾

縫策を講じつゝ、ありし紐育市當局は夙に此等の姑息的手段の到底眞の徹底的解決た
らざることを覺り、善後策に苦心したる結果、遂に千九百十四年六月紐育市長ミッ
チュル氏は數名の隨行員と共にゲリーリ學校を視察し、大に覺るところあり、直ちにワ
ート氏に託して紐育市に對するゲリーリ式の適用案の作製を依頼したのである。而し
て、其の適用案の報告書完成して、同年末に至り、紐育市は一年一萬弗の高給を以
てワート氏を教育課顧問として招聘し（因みに、ゲリーリ市に於ける年俸は六千弗な
りといふ）、一ヶ月一週間専ら勤務せしめることにした。そこで氏は先づブルックリン
の第八十九公立小學校にゲリーリ式の適用を試み、又、翌十五年二月にはブロンクス
の第四十五公立小學校に之れが適用を試み、此處に此の二校は全然ゲリーリ式に依つ
て其の組織改造を斷行するに至つた次第である。

『ゲリーリ學校』の著者にして豫ねて、ゲリーリ學校に就き種々なる論文を公にし、殊
に千九百十五年三月親しく參觀視察して大にゲリーリ學校を賞讃せるランドルフ・エ
ス・ポールン氏は、此の間の消息を傳へて、『紐育市に於ては、ゲリーリ市の視學ワー

ト氏を招聘して、公立小學校の組織改造を管理監督せしめ、且つ生徒過剰に苦しむ
學校區に於ける所謂二部教授の問題を解決せんと畫策せる紐育市の教育課に向つて
助言せしめ、遂に千九百十四年より同十五年に至る一學年間の大部分は、紐育市の
二學校にゲリーリ式を適用し運営するに至つたのである』と言つて居る。尙ほポール
ン氏に據れば、此の實驗の結果として、紐育市の教育課は、更に最近ブロンクス區
の二個の學區に、此のゲリーリ式を適用することに決定したといふことであるが、此
の二學區には十四個の學校と四萬六千人の生徒とが在るのである。ポールン氏の右
の著書は千九百十五年、即ち今より六年前に出版されたものであるから、今日では
無論、此の十四校が改造された譯であると思はれる。

初め、ワート視學は、此のブロンクス區の小學校にゲリーリ式を適用し、且つ僅か
に五百萬弗の經費（最大限に於て二萬人の生徒を容るゝに足るべき十二個の校舍を
建築する費用）を支出しさへすれば、紐育市當局者は、今日十三萬二千人の生徒に
向つて課して居るとこの二部教授の弊を實際に於て救濟するを得べき所以を示せ

る見積書を紐育市當局者に提出したのである。兎に角、此の見積書に依つて、ブロンクス區の小學校はゲーリー式に改造された譯である。斯く、紐育市が他の都市に率先して先づ、千九百十四年ブルックリンの第八十九公立小學校にゲーリー式を適用し、更に翌年ブロンクスの第四十五公立小學校に之れを試み、其の成績實に良好なりし結果、進んでブロンクスの十四學校の組織改造に成功し、更に其の後五十校に適用し、現に總數百二十校にゲーリー式の適用を爲すに至つて居るといふ有様である（千九百二十年の記録）。紐育市に於ける此の成功は延いて他の都市をして續々ゲーリー式の適用を促したる事は争はれざる事實であつて、これは既に本書の劈頭に於て述べたる如くである。従つて、ゲーリー學校を説きたる序として、それが最初の而かも最も成功を博せる紐育市のゲーリー式適用に就いて少しく述ぶるところあるべきは、當然のことと屬すると思ふ。而して、ワート視學が紐育市當局に致したる報告書は前後三通あつて、自己の改造案は其の報告書中に委曲傳へられて居る。而かも此等の報告書は、ワート視學がゲーリー式の數多の特色の根柢となれる教育的原理及び實際的

方面に就いて具さに論述したるものであつて、ゲーリー式なるものの真相を窺ふ材料として、誠に價値の極めて大なるものが存する次第である。今、序ながら、此等三通の報告書を舉げて見れば左の如くである。

(一) 『協働及び繼續課の爲めの組織案に關する報告』紐育市教育課 千九百十四年

(二) 『紐育ブルックリン第八十九公立小學校の組織改造』千九百十五年一月十九日紐育市教育課長トーマス・ダブリュー・チャールに對する報告

(三) 『紐育市ブロンクス區第二十八、第二、第四十二、第六、第五十九、第四十四、第五、第五十三、第四十、第三十二、第四及び第四十五公立小學校に對する組織改造豫定報告』

尙ほ、紐育市の公共教育協會は、千九百十六年に『市に對するワート報告』なるものを發行し、又、前にも引用せるアリス・パロズ・ファーンズ嬢が自費にて出版し、紐育市の視學補シャロー氏に對して報告せる

『ゲーリー學校に關する視學補シャロー氏に對する答申書』

とあり、殊にバロズ・ファーマンズ嬢の報告は豊富なる統計的記事を載せ、且つゲーリー學校の教育に關する今日の種々なる誤解を一々批評論難して、最も肯綮に中つて居るのである、更に、ジェー・エス・テーロア氏は、千九百十六年一月の『教育評論』誌上に『紐育市に於けるゲーリー式實驗に關する報告』と題する一文を掲載して居る。何れも、紐育市に於けるゲーリー式の適用に關して、直接間接有力有益なる記述に滿てるものである。勿論、紐育市にゲーリー式を適用するに際しては、種々なる批評も出たのであるが、それらに對しては、既に前に一々答辯を試みたことであるから、今は繰り返へさない。然し、大體上、非常の好評を博し、着々ワート視學の豫定通りに組織改造の業が進捗して居るのである。最近ジョン・デューイ教授は紐育市の或る公會の席上に於て、紐育市の小學校にゲーリー式を適用することに就いての意見を徴されたる時、教授は、『紐育市民の將來を左右すべき問題にして、多年間市民の眼前に迫り來れる中で、此事よりも重大なるものは未だ一つもなかつた』と公言したのであ

る。以て其の價值と成功とを窺知するに足るであらう。そこで、今はワート視學のものせる報告書の中、前掲の(二)及び(三)の梗概若しくは要點を左に傳へて、以て紐育市に於けるゲーリー式の適用の一斑を知ることとしようと思ふ。

紐育市ブルックリン第八十九公立學校の組織改造に關するワート視學の報告

普通の學校に對するゲーリー式の適用を示す

此の學校は初めて紐育市に於てゲーリー式の下に組織を改造することになつて居つたのである。次に引用せるワート視學の報告に據れば、生徒過多に苦しむ小學校を二重學校案に據つて圓滑に運用するゲーリー學校に改造するに當つて、如何なる變化を爲したるかを示すものである。

千九百十四年十一月六日以前には、第八十九公立學校には四十個の學級が收容されて居つた。此の四十個の學級の中の十二個、即ち上級に屬する學級は一日完全時間間の授業を爲し、總計二十六個の教室の中の十二個だけを専用して居つたのである。

他の二十八個の學級は之れを一個各十四學級の二組に組織され、そして残りの十四個の教室に收容され、それに小さな講堂と五個の地下室とも使用し、それに伴ふプログラムの變更修正を加へられて授業を受けて居つたのである。次の表を見よ。

課業時間	十四個の教室	講堂及び運動場に於ける課業及び練習
時 本 8.30 — 9.30	第一組の十四學級 第一組	第二組
9.30 — 10.30	第一組	第一組
10.30 — 11.30	第二組の十四學級 第二組	第一組 第一組辨當 第二組辨當
11.30 — 12.30	第一組	第二組
12.30 — 1.30	第一組	
1.30 — 2.30	第二組	
2.30 — 3.30	第二組	
3.30 — 4.30	第二組	

扱て、此のプログラムに於ては十二個の教室は専ら十二個の學級が之れを使用し

て居るから、生徒過剰の負擔は、すべて之れを残りの十四個の教室で處分しなければならぬ事情にあつた譯である。而して、此等十四個の教室は一日八時間種々に使用され、明けられたことはなかつたのであるが、然し講堂と運動場とは一日僅かに二時間しか使用されなかつた。これは講堂と運動場とは、それらが使用される時間が短かくて非常に混雜して居つたといふ何よりの證據である。若し雨でも降つて、總べての生徒が九時三十分より十一時三十分に至る迄、校舎内に入り居らねばならぬやうな場合には、九學級丈けが餘儀なく一時五個の地下室を學科室として使用しなければならぬ次第であつた。他の兒童保育機關を組織的に使用するといふやうな設備には少しもなつて居らなかつた。

それであるから、舊きプログラムでは普通の單一學校組織の學校が與へ得る以上の便宜を備へようといふ計畫はなかつた譯である。

扱て、舊きプログラムの根柢となつて居る原則は、普通教室の四時間の課業を補足するものとして、運動場及び講堂に於ける一時間を加へて、それで以て從來のま

まなる一日五時間の授業を爲すといふ考へであつたのである。不幸にして最後の時間には、學科教室として使用さるゝやうな何等の意向のなかつた場處を、成るべく多く學科教室として使用せられて居つたのである。それ故に、無論、學科の勉強の上には到底満足な場處となる譯には行かなかつた筈である。そこで、誰れも斯やうな遣り方の一日五時間授業は、普通の單一學校組織に於ける普通の學科教室の五時間授業よりも優さつたものだとか、又はそれと同じ効果があるものだとかさへも主張する人はなかつた譯である。

一體、此のプログラムは、普通の單一學校組織の學校が提供する以上の大なる便宜を兒童に與へようとして造られたものではなかつた。其の目的は、普通の一日五時間なる完全授業を施す學校がやつて居る從來の授業と略ぼ近き丈けの仕事をやらうとして造られた案であつたし、又、充分な丈けの數の學校を新設して規定通りの一日完全時間の授業を爲し得るに至るまでの、單なる一時的便宜の方法として考へられたのであつた。そこで、主要目的は、永久的救濟方法を講ずる爲めに學校を増

設するといふに在つたのであるから、此の一時的間に合せの二重組織の便宜策の爲めに、資金を費す譯には行かぬといふ事情であつたのである。

然るに、之れとは反對に、第八十九公立學校に於ける新プログラムは、やがて學校が新たに増設されるまで、成るべく一日五時間の授業を從來の學校がやつて居るのに近い丈けの授業を兒童に與へて、それで以て二部教授の弊を矯治しようとする計畫では決してないのである。

今日此の學校に於て使用されて居る新プログラムを決定したところの唯一の目的は、實に一日六時間の授業を爲し、それから諸方面の兒童保育機關のすべての活動と聯絡協働を遂げ以て例の學習兼作業兼遊戯運動の學校と爲して非常に豊富なる便宜と機會とを兒童に向つて提供せんとするに在るのである。

第八十九公立學校に於て次に述ぶる如き種々なる改良方法を講じて以て、初めて生徒の收容力を増加することが出来るし、又、種々餘計の便宜を常設的に利用することが出来る譯になるのである。種々なる改良とは、即ち、一個の體操場及び游泳

池を設け、公立圖書館の分館の爲めに二個の室を設け、理科實驗室及び講堂の爲めの設備を爲し、十六學級の爲めの衣服室を造り、常設的運動場を設け、又圖書及び音樂研究室を造る等である。右の中、運動場を除いて、經費總高は約三萬五千弗にしか過ぎぬ見積りである。

第八十九公立學校及び二個の他の學校の生徒過剰を救済する爲めに、豫算に計上されたる五十一學級單位の新設學校の敷地及び建築費丈りで、第八十九公立學校に於て採用されたる案に則れば、優に十個の學校に於ける同様の施設變更の資金が事足りるであらう。扱て、此等の施設變更を爲せば略ぼ二百個丈の教室の收容力を永久に増加することが出来る。何故といふに、此等現代的なる新式の學校に於ては經費が少くて而かも收容能力を増大せしめることが出来るからである。五十一學級單位の學校は、僅かに四十八學級の舊式なる完全時間授業を爲す丈の收容力を増すに過ぎざるものであるから、第八十九公立學校に尙ほ十六個丈の學級の満足なる收容力を増加するとすれば、それで第八十九公立學校案に則れる新校舍及び敷地

の費用の三分の一、即ち約十七萬弗の費用丈りで事足りるのである。然し、今指摘して置いた通り、かゝる多額の費用などを必ずしも使ふ必要がない。

舊プログラムに依れば、第八十九公立學校には僅かに四十個の學級しかなかったのであるが、然し一學級は頗る多數であつたので、それを二組に分け、二人の教師が世話をして居つたのである。而して此の學校に上がる生徒の數は急激に増加しつつあるので、そこで、四十二學級の爲めのプログラムを造ることを計畫されて居るのである。

新プログラムに於ける此の四十二學級は一校各四十一學級の二重學校に分けられる。次に示すプログラムに於ては、此等の二重學校をX學校及びY學校と記名して置く。

一 X 學校

二十一個の教室は、普通正規の學科、即ち、算術、言語、讀み方、歴史、及び地理

等の諸學科に於ける規定の學科教授用として使用する。而して残りの五個の教室をば、特別學科、即ち、理科、圖畫、及び音樂の爲めに使用する。右の二十六個の教室に附け加へて、此の學校には手工作業場、家事實驗室、小なる講堂が各一個づつ、それに五個の地下運動室と一個の幼稚園とが設けられる。千九百十五年一月九日の現在では、特別室が未だ設備されて居らないから、當分は、普通學科の授業を餘計に課して居るのである。又、圖書室も司書もないし、又、手工及び料理の教師は、此の學校では僅かに二部更代であるから、二人の餘分の特別教師は運動場の世話に従事して居るのである。

次に、此のX學校の諸活動と、それを遂行する爲めの設備とを表示して見よう。

課業の種類	各課業を行ふ設備
普通學科の教授	二十一個の教室
一般的練習	講堂
運動遊戯及び體操	運動場、運動室、 游泳池、體操場
特別作業	二個の手工作業場 二個の理科實驗室 二個の圖畫研究室 一個の音樂室 一個の公立圖書館 分館

又、二十一個の學級は各七學級の三部に分たれるが、それは次の如くである。

- 第一部……………七學級……………第六、第七、第八級
- 第二部……………七學級……………第三、第四、第五級
- 第一部……………七學級……………第一、第二級

右の二十一學級は、第一級より第八級に至るまで、次に表示するプログラムに従つて前掲の諸課業を課せられるのである。

課業の時間	學科 授業	一般的練習	運動その他	特別作業
8.30—9.20 時分	美術 (第一、二、三全部)			
9.20—10.10	言語 (第一、二、三全部)			
10.10—11.00		第一部	第三部	第二部
11.00—12.00	X學校全部算當 讀み方 (第一、二、三全部)			
12.00—1.00	讀み方 (第一、二、三全部)			
1.00—1.50	歴史、地理 (第一、二、三全部)	第三部	第二部	第一部
1.50—2.40		第三部	第二部	第一部
2.40—3.30		第二部	第三部	第一部
3.30—4.30		第二部	第一部	

時間表概要。生徒の授業時間但し毎週の分數。

(幾べての生徒は紐育市の學校に比して二十パーセントだけ餘計の授業時間を有する)

學校課業の各部	第一部		第二部		第三部	
	X學校	紐育市學校 最小限	X學校	紐育市學校 最小限	X學校	紐育市學校 最小限
學科………	1050 ^分	840	1050	840	1050	880—1090
講堂………	250	75	250	75	250	75
運動………	放課後	80	250	150	500	180—300
作業………	500	280	250	250	學科時間 二含マナル	
合計………	1806	1275	1800	1315	1800	1255—1345
完全時間…	1800	1500	1800	1500	1800	1200—1500

此の新プログラムに従へば、教師の費す實際の時間は、規定の勤務時間より長くはなつて居らない。各教師は普通學科の授業の爲めに二百十分、それから特別作業の授業の爲めに一百分、又、生徒を集合せしむる爲めに二十分、都合三百三十分丈だが、規定されたる勤務時間である。

特別作業の課業に於ける二期は一方に於て、運動及び體操に此の二期を費す教師と、それから他方に於て、音楽、圖畫、及び理科等に此の二期を費す教師とに部門が分かれるやうにせねばならない。手工の教師と司書とは二人の教師を作業期から手ばなさせ、そして其の二人の教師に運動と體操との課業を爲させるやうにするこゝとが出来ぬ。六人の教師は講堂期の世話を爲し、各部の他の教師は運動及び體操に割り當てられねばならぬ。而して餘分の教師だけが手工の教師となるのである。又、特別作業をうまく教授することの出来ない教師が少しくあるならば、彼等は其の時間をすべて普通の學科の授業に費してもよろしい。斯くして普通の學科の授業から手すきになつた教師達は其の時間のすべてを、或は體操、及び運動、或は音楽

或は圖畫、等に費すことを許されて居るのである。

教師の約半數は答案調べや、學課教授の豫定造りや、各兒童の監督や、又は専門の勉強等の爲めに、在校中、五十分一期の餘分時間を持つことになるのであらう。余の判断にては、總べての教師は家庭に歸つて、此等の仕事をやるよりも、學校に於て、補足的なる此等の勤務を執るやうにすれば、よからうと思ふのである。家庭にて執務するよりは、時間がかゝらぬといふ便宜があらうし、一般公衆も亦、斯くすれば、教師の勤務を一層よく理解するに至るであらうと思ふ。

二 Y 學校

不幸にして上述せるプログラムは二十一學級の兒童の爲めに二十六個の教室を要し、それに加ふるに、講堂、運動場、圖書室、工場等を要するのである。一日の課業の間には、如何なる設備もX學校に依つて半分丈の時間しか使用されない。幸にして、講堂はX學校の僅かに三分の一丈を收容するに足りるほど大きければよ

い。運動場も、特別作業場も亦講堂と同じことである。此等の設備をば、各部交互に三期丈け使用するといふ點に於て非常の經濟となる。而して、交互の各部は此の學校の三分の一丈けの數である。然し、若しも普通の教室を初め其の他の設備が一層長い時間使用され、一層餘計の兒童を收容することを得るならば、普通の教室を初めあらゆる此等の設備に一層高き建築及び當初の費用と一層大なる運営及び維持費とがかゝつても差支なき譯である。

X學校が此等の諸設備の何れをも一日の時間中に僅かに半分しか使用することが出来ぬから、此のX學校がそれらを使用して居らぬ場合に、今一つの二十一學級の學校がそれらを使用するといふことに、何の反對もない筈である。次に示す如きプログラムは、斯かる二重學校、即ち、Y學校と命名さるゝ學校の爲めに調製せるものである。

課業時間	學科授業	一般的練習	運動・體操	特別作業
8.30—9.20 時分	算術 (第一・二・三全部)	第二部	第三部	第一部
9.20—10.10	言語 (第一・二・三全部)	第三部	第二部	第一部
10.10—11.00	全校辨當			
11.00—12.00	讀み方 (第一・二・三全部)	第一部	第三部	第二部
12.00—1.00	歴史地理 (第一・二・三全部)			
1.00—1.50				
1.50—2.40				
2.40—3.30				
3.30—4.30				

(表中の空所はX學校が其の間に課業を受けて居ることを示すものである)

Y學校もX學校と同一の時間を、生徒並びに教師に課して居るのである。何れの

學校も他の方の學校が其設備を利用する以上には利用する譯に行かぬのであるが、然し、他の方の學校が、それを利用するからして、一日の如何なる課業時間でも、其の設備を一層よく利用する譯である。斯くして、四十二個の兒童の學級は、優に二十六個の教室に收容されるのである。十六個教室の一學校を増設する爲めに要する建築費、敷地代、學校番費、發熱費、維持費等の最初着手の費用と同一經費で以て、別に右の如き一校を新設せずして、而かも二十六個教室の學校に改造して永久的改良策を講じ、且つ増加せる運営費を優に供することが出来る譯である。

扱て、此のプログラムは、一校舎に二個の學校を造ることの出来るやうにしたものであるが、元來それに依つて一日の課業時間を長くして、從來の五時間の代はりに六時間を規定し、そして、此の六時間の在校時間中に少しも無駄なく全校生徒の爲めに一層大なる便宜を提供せんとして調製されたものであることを記せねばならない。下級の方、即ち第三部の生徒には一日一百分の運動遊戯を課するのであるが之は下級の兒童にとつては、運動遊戯が作業の代はりを爲すものであるといふ趣意

からである。而して、此の遊戯運動は次第に作業に變形し來り、第二部なる中間の生徒には五十分の作業と、五十分の運動遊戯を課するやうにし、最後にグラマ・I・スクール級、即ち、第一部の上級生徒には、一百分の作業を課し、而して放課後の閑暇の時間で、運動遊戯をやらせるやうにして居るのである。斯くして、遊戯衝動は作業衝動に變更される譯であり、生産的活動が非生産的なる活動に取つて代はるといふ仕組みである。換言すれば、作業をば構成的遊戯と化せしめる譯である。

紐育市ブロンクスの諸學校の組織改造に關するワート視學の報告

ゲーリー案が如何にして普通の學校に適用さるべきかの次第を説明す

紐育市當局の談に據れば、ブロンクス區の十二學校は同市に於ける他の如何なる區の十二學校よりも生徒が過多なりといふことである。此等の十二學校には僅かに二萬五千三百三十一個の座席しかないのに、生徒總數は千九百十四年十二月三十一

日の調査に依れば、實に三萬五千五百八十人と登録されて居るから、結局、座席數より生徒數が一萬〇二百四十九丈け多い譯である。即ち、座席一〇〇に對して在籍生徒は一四〇の割合となる。然し、現在の座席中二千五百個即ち五十個の教室は十分であるといふ。そこで、此等十二學校には七百七十九の學級があるが、満足な教室は僅かに四百八十しかない。即ち、満足の教室を一〇〇とすれば、學級は百六十二の割合となる譯である。

自下二個の新學校が建築中であり、それに十五個の教室を有する敷地借用の一校舎が殆ど完成されやうとして居る。而して此等の三校は四千五百人の生徒と更に百〇三個の學級を收容することになるのであらう。故に此等三校完成の曉は、満足な教室の數は七百七十九學級に對して五百八十三個となる譯である。千九百十三年十二月三十一日より翌千九百十四年十二月三十一日迄に、此區の十二校の在籍生徒の數は四千人増加して居る。此増加率で現在進むものとすれば、近く設立さるべき三校は其の建築期間に於て此等増加する生徒を收容する譯には無論行かない。そこ

で、學校に通ふ各兒童に夫れ夫れ満足なる座席を供するには、目下建築中の三校に加へて更に四校丈けの新設が必要な譯である。ところが、市の教育課の財政窮迫なる爲めに全市を通じて僅かに六個の小學校新設を計上した丈けであつて、其の六個の中、二校丈けを、此のブロンクス區の十二校の設備狹隘を救ふ爲めに割り當てられる豫定となつて居る。而して、此の二校の建設費は大約一百万弗の豫算である。假りにさきの建設中の三校に加へて此の二校を新設し、明日直ちに使用され得るところで、尙ほ四千人の生徒は満足の座席がなく、近き將來に於て、兒童正常の發達を計る爲めの何等の設備も用意されて居らぬこととなるのである。

そこで、余(ワート氏)は、さきに言へる十二校の組織改造案を提出する次第であるが、余の案に據れば、現に用意さるべき五百八十三の教室の代りに、實に一千〇二十二個の學級を満足に收容することを得る筈である。

余の新組織案に従へば、先づ不満足なる附屬の建物を退かせ、且つ不満足なる教室は講堂、運動遊戯室、實驗室及び工場として使用するのである。今日、十二學校

にある七百七十九學級、三萬五千五百八十人の生徒に代ふるに、更に増加せる二百四十三個の學級に對し、且つ總數四萬六千人の兒童に對して十分の餘地を造り得るであらう。斯くして、今後入校生徒が約一萬人増加するまでは十分に收容し得られる譯である。

扱て、此の組織改造を成就するには、四校丈けには寧ろ廣大なる附屬の建物が必要であるが、其の費用は約四十七萬五千弗を要する。残りの八校は單に僅かばかりの構造上の變化と少しの設備増加を要する丈けであつて、それが爲めに約四萬四千五百弗の經費がかかるのである。又、四校が購入すべき餘分の土地は約二十二萬五千弗を要する。それで前掲舊式の二學校を建てる爲めに、一百万弗を要する豫算に對して、余の案にては、實に十二校の爲めに總計僅か七十四萬四千五百弗しか要せぬ譯である。

四校の附屬建物、八校の改築及び設備増加、それに餘計の敷地購入等の費用は、新設豫定の二校の建築、設備及び敷地の費用よりも遙かに少額である。若し二校新設

豫定案を遂行すれば、全體にて一日五時間の單一校組織に依りて六百七十一學級の收容力を得るのであるが、其の結果は現在の學級數七百七十九學級よりも却つて百〇八學級丈け少くなる譯である。然るに余の組織改造に依れば、此二校新設案よりも經費が廉く、而かも一日の時間を延長し、其の上優に一千〇二十二學級丈けの收容力を得ることになるから、現在の學級數に比して二百四十三學級丈け多くなる。故に二校新設案と余の案とは、學級の上に於て三百五十一、生徒收容數に於て一萬六千人の差異がある譯である。

余の新組織案が眞に經濟的なることは、二校新設案の下に得らるべき大收容力ある校舎に於けるよりも、一層多大の教育的便宜を如何なる兒童にも與へ得る點に於て見出されるであらう。

上級の五百十一學級は次の組織の如き課業日程を有するであらう。即ち、學科授業の爲めに普通教室に八十分、體操及び運動遊戯の爲めに體操場、運動庭、又は運動場に四十分、講堂に於ける一般練習の爲めに四十分、辨當時間六十分、學科授業の

爲めに普通教室に一百四十分、圖書室、理科實驗室、又は手工教練及び工場に八十分。次に下級の五百十一學級には左の如き課業日程を與へる。即ち、最終の八十分は、運動遊戯、遠足、圖書館、教會教授、又は家庭教授等に供せられる點丈けを除けば、他は右に記せる上級生のそれと同じである。一日完全課業を爲す普通正規の學校にて一日三百分課業を施す代はりに、余の改造案にては、生徒は普通辨當時間六十分に加ふるに一日三百八十分の課業を持つことになる譯である。斯かる學科兼作業兼運動遊戯の學校は、兒童をして市井の惡感化より免れしむる上に非常の効果があり、そして、學問上、身體上、並びに職業豫備上の教育の爲めに十分なる時間を與へるのである。今、次に之れを表示するのであらう。

教科目	組育市に於ける一日完全時間授業を施す普通の學校組織に於ける毎週の平均時間	プロンクス區諸學校に於ける新組織案に依れる毎週の平均時間
開校式	75分	100分
音樂	60分	100分
體操・休憩・生理・衛生	120分	200分
英語・地理・歴史及び算術	1.010分	1.100分
自然研究及び理科	80分	133分
圖畫	85分	133分
製作作業	70分	134分
毎週時間總數	1.500分	1.900分

舊式普通の一日完全時間授業組織の學校に在つては、單に手工教練及び料理室の設けあるのみであり、而かも僅かに第七級及び第八級に課する丈けである。生徒各個の作業の爲めの理科實驗室や、特別装置を有する圖書研究室は少しも設備されて居らない。

新組織案に在つては、手工教練、料理兼裁縫作業場、特別装置を有する圖書研究室、生徒各自の作業の爲めの理科實驗室は上記のあらゆる級の爲めに設備されるのである。その他、十二校にうまく配當されたる特別装置と特別教師とを有する職業豫備の工場が六十三個丈け設けられる。尙ほ又、學校園、一層優良なる講堂及び音楽室、一層優良なる普通教室、體操場及び運動場等も設けられる筈である。

諸學校に就いての記述

ワート案を取入れる爲めに必要なる諸變動を仔細に示す

一 第二十八公立學校

第二十八公立學校は四十五個の正規の教室に五十八個の正規の學級を有し、それに一個の木工場及び一個の料理室とが附設されて居る。地床の運動庭及び立派な地下床の運動室は一時に九學級に對して十分に運動を爲す餘地を與へて居る。又、運動の爲めには望ましからざる最上階に大きな體操場があるが、これは圖書室に使用さるべきである。又第四階目に在る講堂は可動的仕切の代りに常置の仕切を造つて六個の普通教室に改造すべきである。第二階目の四個の普通教室から仕切壁を撤去し、斯くして得たる講堂は常置の講堂となすべきである。斯く四個の普通教室を講堂として使用するから、残る所は僅かに四十一個の普通教室となる。其の中の三十六個を普通の學科授業に使用し、残る五個の教室の中二個は理科實驗室に、一個は音楽室に、二個は工場に使用すべきである。此等五個の特別教室と、手工場と、料理室と、圖書室とは、一時に九學級に對して理科、圖書、音楽、手工教練又は工場

作業を與へるであらう。そこで此の學校には、七十二個の正規の學級だけが融通されることとなる譯である。即ち三十六個の普通教室に三十六個の學級、講堂に九學級、運動遊戯に九學級、特殊作業に九學級、時間外の運動遊戯や、教會に於ける宗教教授、遠足、圖書館作業等の爲めに九個の初等學級、これである。

此等總べての學級を完全に教授する爲めには七十六人の教師を雇はねばならぬ。即ち、五十六人の教師は、歴史、地理、算術、言語及び讀書を教授し、又講堂の管理に當たるべく、二人の教師は音樂の教授に、四人の教師は運動遊戯及び體操に、一人の教師は圖書館作業に、二人の教師は圖畫教授に、二人の教師は理科實驗作業に當り、而して九人の教師は手工教練、家事の理論及び實際及び工場作業を教授するのである。

又、八室を有する枠組みの附屬建物(附屬校舍)の中に正規の十三學級があるが、これは市をして此の建物を其の儘保有することの出来る爲めに、學級用に供されなければならぬ。即ち、此の附屬建物(附屬校舍)の爲めに十二學級を融通つけるやうに

特別のプログラムを設定することが出来る。

斯くして、第二十八公立學校及び附屬校舍には、總計八十四個の學級を用立てることが出来る(即ち前者は七十二學級、後者は十二學級)からして、現在の記録(即ち前者は五十八學級、後者は十三學級合計七十一學級)よりも十三學級丈け多い譯になる。而して、單一校組織に於ける普通五十三學級の收容力に比して、實に三十一學級丈け餘計となるのである。

尙ほ此の費用としては、單に講堂に充てたる普通教室に常置の仕切をつける爲めと、講堂、實驗室、圖畫音樂室及び工場の裝置費と丈けであつて、約一萬弗にしか過ぎない。

二 第五公立學校

第五公立學校は十九個の正規の教室に二十七個の學級を有し、一個の立派な講堂及び二個の移動的學校を有する。現在四個の學級が僅かに仕切りの爲めに幕を下げ

た丈いで此の講堂を普通教室として使用して居る。地下床の運動庭には六學級が一時に遊ぶ丈けの十分なる場處がある。

扱て、其の移動的學校を撤去すれば、満足なる戶外運動場が出来ると譯である。地下床には二個の小工場を役立てる丈けの大きさある立派な工場があるが、此等の工場及び十九個の普通教室、それに講堂及び運動場に於て、普通教室として最も望まじき室を十六個使用する丈けで、優に三十二學級の融通がつくやうにされるのである。斯くして、現在の學級數よりも五個丈け多き學級が出来るとし、又、一日五時間課業の單一學校組織に成れる本校の收容力よりも十三學級丈け餘計となる譯である。移動的學校を撤去する費用は、その學校が移轉される方の學校に負擔さすべきである。設備費及び改造費は、合せて約五千弗だけでよろしい。

三 第三十二公立學校

第三十二公立學校には三十八個の普通教室に六十學級が收容され、尙ほ一個の工

場及び一個の料理室とが設けられて居る。五個の普通教室と一個の料理室とは、現在僅かに仕切りの代りに幕を垂れた丈けの體操場に設けられて居るのである。三個の普通教室は不完全なる地下室であり、又、一個の普通教室はこれ又不十分なる屋根裏の室であり、更に十二個の普通教室は教室兼講堂となつて居る。

此の普通教室兼講堂に常置の仕切りを立てれば、二十九個の満足な普通教室と五箇の工場とを得ることが出来る。體操場及び運動庭は大きな學校にとつて十分である。尙ほ此の校舎はブロンクス公園に近いので、多數寄つてやる戶外運動庭にも供せられるし、又、花園にも供せられる。而して、現在の敷地はさしたる費用なくして擴張することが出来る。余は第三十二公立學校をば七十二學級の學校に改造することが望ましく考へて居る。斯くして、此の學校は、現在の學級數に比して十二個丈け餘計の學級を融通する力を得る譯である。

又、約十萬弗の費用を以て游泳池、講堂、五個の工場、及び七個の普通教室を有する一個の附屬校舎を建築すべきであると考へる。

第十二章 ゲーリ式適用と教授者の注意

——一視察者のゲーリ式長短観——

ゲーリ市の急激なる發展——ゲーリ式の由來と其の基礎原理——ゲーリ式の長所——一日三時間の普通學科の課業は小學上級生及び中學生には不足である——ゲーリ式には到底救済すべからざる二個の短所がある附加奈陀の教師は學科よりも生徒を尊重す——ゲーリ式は生徒よりも學科を尊重する結果生徒を知ること淺薄に傾く——ゲーリ學校の講堂にて參觀せる理科及び料理の實演——講堂にて活動寫眞の催しを見たが結局講堂課業は普通學科教師の立案監督に依らざれば眞の効果を奏せず——ゲーリ學校の工場作業の長短及び生徒の料理並びに裁縫の課業——運動及び體育は賞讃に値し又圖書館利用は相當の成功を示す

編者曰、ゲーリ學校の本領に就いては、前既に記述せる通りであるが、其の一章にも特にゲーリ學校に對する種々なる批評を集め、一々それが答辯を試みた次第である。兎に角、ゲーリ學校は最初の新組織なるが故に、一般に未だそれは實驗時代に在りといふので、甲論乙駁、未だ必ずしも定論といふべきものがなき有様である。従つて、參觀視察するもの見解乃至印象等區々にし

て、或は之れを以て現代教育界の福音と爲すものあれば、或は却つて其の教育上に於ける缺陷を指摘して餘蘊なきものありといふ風である。或は經濟的能率の増進は之れを期し得べけんも、果して教育的能率の増進を圖り得べきやの疑問を懐くものあり、或は其の教育的原理は之れを是認し得るとしても、實際の教育方法に於て頗る徹底を缺き、皮相淺薄に陥るにあらざるやを危ぶむものもある。勿論、前にも指摘して置けるが如く、ゲーリ學校當局者は自校を以て絶えず向上發展の可能を有する成長物乃至眞の意味に於ける實驗學校と爲して居る位であるから、今後大に改善進歩の餘地を有し、決して固定不動のものにあらずと爲すの意氣は之れを諒知するに足れりといはればならぬ。従つて、批評は大に之れを歓迎すべしと爲すに似たりと推定せらるゝ次第である。今、左に紹介せんとするものは、加奈陀オッター市のジョー・エッチ・プトマン氏が實地にゲーリ學校を參觀し(千九百十七年の十二月か)之れと北米合衆國及び加奈陀の一般教育とを彼此對照しゲーリ學校の長短を最も眞面目に斷定せる一文である。氏の如何なる人物なるかは承知するところはないが、察するに見識及び經驗の大に見るべきものあると同時に、態度の眞率なるは容易に窺知することを得るのである。教育の原理は如何に可なるものであつても、それを實際に行ふには教師其の人の教育法も亦大に之れに添はざるべからざることは、何人も認むるところである。方法の缺陷はやがて原理の意味を没却せしめずんば止まざるものである。故に方法の如何は非常に重大なる結果を有するものといはればならぬ。ゲーリ學校の教師は他校に比して學力と技術とに於て大に優るものありといふが、尙ほ此の點に關して、ゲーリ式そのものの組織と相俟つて改

善すべき點は果してなからうか、經濟的能率の増進の爲めに、教育的效果の向上は果して寸毫も犠牲に供せらるゝところなかるべきか、辯解は如何やうにもあれ、これ大に眞面目に考量すべき問題たるを失はない。殊にゲリー式を採用する學校が所謂虎を描いて猫に類するが如き醜態なきを得んが爲めには、尙ほ更ら此の點に思を凝らす必要があらう。此の意味に於て、ブトマン氏の一文は頗る深甚の妙味を含めるものと思考せられる次第であるから特に紹介して置く。尙ほ氏の此の文は、一昨々年、即ち千九百十八年四月の『教育評論』誌上に掲載されたるもので、『現代の教育的諸運動、其の一ゲリー學校案』と題されて居る。

ゲリー市の急激なる發展

アメリカに於ける最近の學校運動中、ゲリー式の學校組織ほど議論を惹起せるものは恐らくあるまい。ゲリー式は原理の點に於て何等斬新なものでなく、唯だ單に幾世紀の間青壯年者を學生と爲すカレッジや大學が採れる學級循環の組織を初等學校の生活にまで擴張せるものに外ならない。然し、其の原理が斬新でなくても、それを初等學校に適用したことは斬新なことであつて、苟くも教育に關係ある總ての男女の注意を要求し、批評を促がした次第である。

一體、新運動は、未だ社會生活及び市民生活の組織の整はざる都市に在つては、賛否何れも些の偏頗心なくして、極めて容易に着手され且つ試験されるものである。此の點に於て、ゲリーは實驗の理想的壇場であつた。今より十一年前には、ゲリーといふ處はなかつた。其の場處は荒涼たる平地であり、殺風景な沙原にちつぽけな藪解が一面に蔓つてゐた處であつて、ミシガン湖の南端、シカゴ市からは三十哩を距つた處であつた。其の後、此處にイリノイス鋼鐵會社がアメリカではピッツバーグを除けば一番廣大な衝風爐や、コークス爐や、展鐵工場を建造したのである。此の鋼鐵會社は忽ち一萬人の職工を雇ふやうに發展し、そして此等の職工と其の家族とで忽ち三萬人の一都會を造り上げたのであるが、今日ではそれが五萬人内外に増加して居る。扱て此の五萬人の人口は歐米の殆ど總べての人種と總べての言語とを網羅して居るのであるが、其中約半數を含むアメリカ本國の人々を除いた他の一半は、其の子弟の教育に關して何等の宿志宿願をも懷かざる人々であつた。唯だ彼等は他から與へられるものを其の儘受けようといふ所存であつたのである。

ゲーリ式の由來と其の基礎原理

そこで、學校問題は困難なる問題となつた。尤も普通には何等かの學校組織が生れて來るには來るが、此の場合、何んとかして其の組織を急造せねばならなかつたのである。即ち、學校校舎の建築が焦眉の急を告げて居つた。然し、たとひ所要の金を持ち合せて居つても、永久的の學校といふものは、さう二三ヶ月の短時日では設計も建築も出來るものではない。ところが、ゲーリには當時其の金が無かつたのである。此の突然急激な發展を爲したる町を維持して行く税金は、毎年二ヶ年以前に定められた價格に従つて賦課され調達されたのである。然るに、ゲーリの町の發展は日に月に急激の勢を以て進むからして、二年以前の額面の徵税ではとても追ひ付きつこはない筈である。此の手薄な収入と、學校の收容力の二倍も殖えた生徒との爲めに、ゲーリの學務課は大に困難を感じたのである。

斯かる事情に對する普通の應急策は、兒童の二部教授を行ひ、そして一個の教室

と一人の教師とで二學級の生徒を受持たするやうにするのである。然るに、ワート視學は之れとは全然別種の案を立て、且つ實施した。氏は二部教授の必要を無くしたばかりではなく、實際に兒童の課業時間を一日五時間乃至六時間、否進んでは七時間乃至八時間に増したのである。どうしてさうしたかといふに、氏は一個の普通教室を二學級の生徒に宛てがひ、而かも其の上に集會控所や、體操場や、實驗室や、工場や、運動場を設けて、學務課が管理又は認可せる或る作業をば一週間三十時間乃至四十時間兒童に課するやうにしたのである。

如何にして斯かることを爲したかを説明するのが、やがて此のゲーリ學校案なるものを説明することとなるのである。一體ゲーリ學校案の基礎は次の一個の教育的原理に置かれて居るが、此等は年少兒童に適用さるゝ限り、殆ど一般に教育者の容認するところである。第一は、兒童は読み方や、綴字や、言語や、歴史や、文學や、地理や、算術などの書物課業の形式的學科には一日三時間以上費すべきものでないといふのである。第二は、此等形式的なる學科の學習に費さるべき時間は短きを要

し、且つ其の時間と時間との間は自由運動や、體操や、唱歌や、圖畫や、其他種種なる手仕事に費さるべきものであるといふに在る。そこで、若しも一日三時間といふ時間が、教室で形式的學科の爲めに兒童に費させるに十分であるとすれば、一教室擔任の一教師が、一組四十人づゝの二組の生徒に都合六時間丈け形式的なる文學的又は書物の上の學科を教授するといふことは、容易に出來得る譯である。そして、此の六時間といふ時間は、普通、一人の教師の一日の勤務時間である。そこで體操場や、工場や、又は手工教授室や、圖畫室や、實驗室や、運動場や、集會控所などを十分に設け、教師及び監督者も相當に用意さへすれば、各兒童に残りの時間丈けを殆ど書物を使はざる何等かの作業活動に費させるやうに仕組まれる譯である。然し、如何なる兒童でも實際には普通の學科の學習に三時間打ち続け費し、それが濟むと、今度は他の作業活動に三時間又はそれ以上を打ち続け費しては居ない。即ち、一日を通じて書物の上の學科と手先きの仕事とを交互に課するやうな仕組みにプログラムを作つて居る。但し時には書物の上の學科に打ち続け二時間を課する

必要もあることはある。

ゲリーリ式の長所

次に、ゲリーリ式には如何なる利益があるか。其の利益と主張するところを明らかにする爲めには、恐らく比較を試みるのが一番よからうと思ふ。二十四の教室と九百六十人の生徒とを有する普通の加奈陀又はアメリカの都市の學校には二十四人の普通學科教師と、それに加へて、一人の體操教師、一人の手工教師、一人の家事科の教師、それから多くの場合には、唱歌と圖畫の教師として餘分に二人居るから、都合にて生徒九百六十人に對して二十九人の教師が居る譯である。然るに、ゲリーリ案の下には、二十四學級には十二人の普通學科の教師が要る丈けである。それで、其の上に、體操の爲めに二人の教師、家事科の爲めに二人、造塑、印刷、鍛鐵、木工等の種々なる工場作業の爲めに四人の教師、唱歌に一人の教師、圖畫に一人の教師、集會控所に二人の教師、都合生徒總數九百六十人に對して二十四人丈けの教師で

宜しい。さうすると、ゲリーリ式によれば、五人丈け教師の節約が出来る上に、二十九人の教師を有する普通の學校よりも一層多種類で、又完全なる學科課程を有する學校を得るやうに思はれる譯である。

又、普通の學校組織では二十四個の普通教室に、體操場、集會控所、それに附け加へて手工教室及び家事教室、即ち、總べて約三十六個の教室單位の學校設備である。然るに、ゲリーリ案では僅かに十二個の普通教室に、他の學校課程の爲めの約十二個の特別教室を單位となし、都合二十四個の教室を單位とする丈けである。要するに、ゲリーリ式は教師に於て十七パーセント、學校建物の經費に於て三十三パーセント丈けの節約を來たすこととなる。そこで、若しも此經濟的效果同様に效果ある教育が兒童に與へられ得るものならば、此の經濟的節約丈けでも、ゲリーリ學校案の光明が發揮されるであらうと思ふ。さて果してこれは如何なるものであらうか。

一日三時間の普通學科の課業は小學上級生及び中學生には不足である

扱て、ゲリーリ案は之れを皮相的に觀察したところでは、有効で經濟的であるやうに見えるにも拘はらず、それは一組四十人乃至四十五人の生徒に對して一人の教師と一個の普通教室とを配備する傳來の組織で教授して居るところの加奈陀及びアメリカ合衆國の最もよい小學校が、現に與へる教育と同等の教育をととも與へ得ないと信じて居る。成る程、下級の生徒には書物の上の學科課業は一日三時間丈けで十分であることは確かにその通りである。大體十歳又は十二歳までの兒童には、この事が當てはまることは、優秀なる教育者の一致するところであらう。然し、此の年齢以上になり、小學校課程の上級からすつと中學校全課程を通じては、一日三時間では、學科課業には全然不十分である。尤も讀書算の基礎教育以上の學科を履修せずして、手先きの仕事や、職業教育の方に非常に進歩を示す生徒は、全體の約二十

五バーセントもあるやうであるが、此等の兒童ならば、學科課業は一日三時間でも十分であらう。然し、十二歳以上の普通の兒童は學習及び誦讀を一週間僅かに十五時間(即ち一日三時間)丈け學んだとて、逆も徹底した教育は與へられまい。加之、十四歳から十七歳又は十八歳の中學生徒は、英語、歴史、數學、自然科學の外に、普通少くとも一個の外國語を學習する譯であるから、學習及び誦讀の爲めに一週間少くとも三十時間を費さなければならぬ。

斯くいふのは決して單なる机上の空論ではなく、現にアメリカ又は歐羅巴に於ける良好なる小中學では何處でも其の教室で日々學んでゐる事實に徴しても明らかである。然し、是れ丈けの批評では、未だゲーリッ學校案を十分に攻撃し盡す譯には行かない。といふのは、此の案でも、餘分の教室と、餘計の教室とを設けて、上級の生徒に學科課業の時間を増加することは容易のことであるからである。故に、此等の餘計の教師と餘計の教室とを設けても、其の餘分の費用の爲めに、さきに言つたやうな十七バーセント及び三十三バーセント丈けの節約を帳消しにされない限りは

ゲーリッ式は依然として經濟的利益を示すものであらう。

ゲーリッ式には到底救治すべからざる二個の短所がある

附加奈陀の教師は學科よりも生徒を尊重す

ゲーリッ式、即ちゲーリッ學校に於て實施されて居るところのゲーリッ式には、二個の短所があつて、それらの何れも到底之れを救治することが出來ないのである。即ちゲーリッ式は教師の仕事の負擔を過重ならしむるか、然らざれば、兒童を等閑にするの弊害があるのである。換言すれば、教師がいつも兒童の側に居つて其の務めを爲すならば、餘り餘計に仕事をし過ぎることになるし、若し又、教師が身惜しみをすれば、兒童の方が進むべき標準まで進むことがなくなる。然し、ゲーリッの教師は誰れも一日六時間以上に仕事はしない。これは教師の負擔を過重ならしむるであらうか。それから又、ゲーリッの生徒は普通の學科の爲めに一日三時間をしか費やして居らない。これは年少兒童にとつて十分でなからうか。此等の疑問に對して満足なる

答解を爲すには、是非とも小學教育の問題をもつと仔細に吟味する必要がある。一體、吾々の知れる一番成功せる教師は、七歳から十歳に至るまでの年少兒童を教授教養するの仕事を如何にして處理するかを一考せられたい。余の承認する此の問題の内容を徹底的に調べれば頗る複雑であるが、其の要素は大體單純なものである。加奈陀のオンタリオに於ける學校制度の下に在つては、教師は少くとも一年間は同一組の生徒を扱つて居る。此の期間、教師は、教室に於て又、運動場に於て一日五時間若くはそれ以上生徒と共に生活する。教師は生徒に其の受くる總べての事柄を教授する。即ち、読み方も、算術も、書き方も、圖畫も、作文も、唱歌も、體操も裁縫も、初歩の手工も衛生も教授する。教師は自分の大問題の一つは、受持兒童を知ることであると感じ、そして日毎に生徒に就いて益々多くを知つて行くのである。教師は多くの學科を教へるが、然し唯だ一組の生徒にしか教へない。そこで、教師の主要なる心掛けは、受持生徒をして其の周圍の世界に對する興味を刺戟し、また間違ひのなく且つ有用なる習慣、即ち、言語の習慣、勤勉の習慣、秩序の習慣、信

實の習慣、獨立的思考及び自恃の習慣、他に對して鄭重であり、又、聰明なる敬重の念を致す習慣を、生徒につけさせるやうにすることである。

固よりさうしてゐる中に、加奈陀の教師は生徒に向つて読み方も書き方も教へるし、數へ方も、それを實際生活の諸問題に適用することも教へる、教師は本國地理から推し及ぼして世界地理を教へることに依つて、生徒の世界の觀念を次第に大きくさせて行く。歴史及び文學を通じて、教師は生徒に向つて聰明にして高尚なる愛國心を造り出すところの民族的理想を傳へるのである。然し、如何に教授の進度が上つても、決して教師は自分の仕事が元來學科を教へることであるなどとは少しも考へて居らない。教師は唯だ男兒及び女兒を教へて居るのである。教師から見れば生徒が最高の不可測なる價值を有するものであつて、教へる學科は第二次的のもの從屬的のものであつて、丁度職工の道具とか、目的の爲めの手段の如きものと考へられて居る。教師は自分の受持ち生徒と一緒に自然的生活を送るところの案内者であつて、決して日々の分量丈けの読み方、文法、算術、歴史等の食物を自分所有の在

荷の中から取出して切り賣りするやうな學問の仲介人や又は卸商人ではない。生れ
てから死ぬまでの知的發達の全過程は、難多の中から統一を得來る企圖である。そ
こで、學校で學習する種々なる學科は、之れを色々分類はするけれども、決して
分離し個々離れ離れのものではない。それらは相結合して一團の眞理を構成して居
るものであるから、一人の教師が自分の受持の生徒に自分の全時間を費して教へる
方が、三人又は四人の教師が、三組乃至四組の生徒に交互に、自分の全時間の或は
三分の一、或は四分の一の時間を費して教へるといふ組織よりも、一層満足に生徒
を教へることが出来る譯である。

ゲリー式は生徒よりも學科を尊重する結果生徒を知ること淺薄
に傾く

然るに、ゲリー式は、年少兒童に餘り多くの教師を與へて居るが、而かも、眞に
兒童の幸福に對して特別に責任を感じる教師を一人も與へない。即ち、ゲリー式は

兒童を尊重するよりも一層餘計に教授の學科を大事にするのである。例へば四個の
別々なる事實が四人の異なる教師に依つて四個の別々なる課業に於て教授されるな
らば、兒童は自分で此等四個の異なる事實の相互關係を見つけ、そしてそれらに統一
を與へるものであるといふことを、ゲリー式では假定して居る譯である。然し、こ
れは餘り出すぎた假定の仕方である。兒童の心意は元來此等の間隙を橋渡しするこ
とは出来ない。兒童は別々の教師に依つて教へられる教授事項を唯だ劃然と孤立さ
せ、何等の關係も保たせない傾向がある。

一體、賢明であつて、廣い教養のある母親、これが自分の子供にとつての理想的
教師である。母親の教へる事柄は決して儀式張つてゐない。彼の女が與へる教授は
時々折々事に觸れ物に觸れて爲されるものである。彼の女の教育哲學では、實地の
示範の方が重いので、口先の説教の方は軽いのである。彼の女は正しき行爲は肝
要なるものであることを承知し、且つ自分の第一の義務は、兒童をして其の當に爲す
べきことを爲さしむるやうに努力することである。そこで、年少兒童の爲めの學校

としては、それが一日五時間乃至六時間自分が理想的なる母親の義務を果しつゝ、ありと感ずるところの熟練なる教師の居る學校であるならば、此の母親の理想的教授法なるものに殆ど近づいて居ると爲さねばならぬ。然るに、ゲリーリ式では、之が不可能になつて来る。それは、或は八十人、或は百二十人、或は百六十人といふ多數の兒童を、而かも一年の半分丈け教へては、又次ぎの半年間は別な兒童を教へるといふやうな遣り方をして居るからして、如何なる教師でも其等多數の兒童を、而かも短期の間では到底母親のやうに教育を與へることが出来ないからである。又、兒童の方から言つても、どんな生徒も一學年の半分の間に三人又は四人の養母を崇拜するかと思ふと、忽ち次ぎの半年間は別な三人又は四人の養母に向つて其情愛を轉ずる譯には迎も行かぬものではない。然し、大體から言ふと、この遣り方がとりも直さずゲリーリ式の要求するところに外ならない。それは第一級の年少兒童に五ヶ月間普通學科教授の爲に一人の教師を與へて居ると同時に、彼と共に或は運動し或は彼に唱歌を教へ、或は手工を教へ、或は圖畫を教へる教師を三人も四人も提供するのである。

それから、生徒が十歳又は十一歳になつて、第五級に達すると間もなく、彼はプログラムに載せて居る殆ど總べての學科に對して別々の教師を持つのである。斯かる組織の下に在つては、此等の教師は唯れ一人として兒童を知るといふことは、全然不可能である。即ち、彼等教師は各々生徒の志望や、能力や、短所や、長所などの一部分だけしか知つて居らない。彼等の總べてが一緒になつても、實際に生徒を知らぬといふことになる譯である。例へば、彼等はヒンドスタンの盲人共が象を知る程度にしか生徒を知らぬのである。

ゲリーリ學校の講堂にて參觀せる理科及び料理の實演

ゲリーリ式では所謂「講堂」作業なるものを遣つて居るが、これは却つて非常の批難を受けるものであると考へる。普通の學科の教師は、殆ど此の講堂作業なるものに關係を持たぬのである。普通の學科の教師は、それぞれ其の専門の學科を一日六時間だけ相續いて來る二組の學級に其の教室に於て教授することに忙がしいからして

講堂の作業に手出しが出来ない譯である。二人又は三人の特別作業の教師が、講堂作業の監督を爲してゐるが、其の中の一人はピアノを奏することが出来る。余の見たる講堂の作業は頗る教育的價値の乏しきものであつた。これは、一つは組織上に於ける缺點の結果であるし、又、一つには作業の管理監督が下手である結果である。扱て、此の組織に付きまはつて居る缺點は、年齢の非常に差等のある生徒が同一時間に講堂課業に出席せねばならぬといふ事情に宿つて居るのである。この爲めにそれは總ての年齢の兒童の興味を惹くやうな作業を考案することが困難であるし、遂には單に兒童の心を慰ましめ、唯だ其の時間靜肅にさせるだけの催はしにしかならぬといふ結果に終るものと思はれる。余は天候に關する課業を或る理科の教師が一生懸命になつて第三級から中學級の第一年までを含めて居る三百人の生徒に講義して居つたのを實地に參觀したのである。然るに、其の題材は、全然第三級の生徒の理解し得ざるところであつたと同時に、中學級の生徒にとつては、馬鹿々々しいほど簡單なものであつた。又、余は第六級か七級の女生徒が『戦争菓子』の製造法に關

して講話を爲して居るのを傍聽した。此の女生徒は製造に必要なる成分を所持し、そして、講話してゐる間に、それらを一々聽衆に示したのである。然し、戦争菓子が一つも製造されなかつた。余の意見では、此の女生徒は聽衆の前で話すことには幾分か大切な訓練を経たものではあるけれども、其の時聽衆たりし九歳から十六歳に至る三百人の生徒は、殆ど其爲めに何物をも得なかつたであらうと考へるのである。即ち、彼等は此の題材に對して殆ど何等の興味をも持たなかつたのである。彼等は能動的態度を採らずして受動的であつたし、而かも一般の生徒は非常に退屈らしく見えたのである。此の講話を聞いた中で六人の女生徒は家庭に歸つて、戦争菓子を作つたといふことであるけれども、其の時間と努力との費用は、到底其の結果に釣り合はざるものであつた。それよりも、普通の學校で一人の熟練なる家事の教師が、二十人の生徒に向つて小さな教室で菓子製造法を實地に教へる方が、一層良好なる結果を擧げることであらうと思ふ。

講堂にて活動寫眞の催しを見たが結局講堂課業は普通學科教師の立案監督に依らざれば眞の効果を奏せず

次に余は活動寫眞の課業に三時間の講堂作業を課したのを參觀した。機械は能く運轉され、寫眞も立派で、兒童は靜肅で、行儀がよかつた。然し、兒童は唯だ單に心を樂しませたに過ぎなかつた。換言すれば、活動寫眞は殆ど教育的價值がなかつたのである。今、余の見たる三課業の中の一つ丈けに就いて述べれば、余の此の斷定が明らかになるであらう。寫眞に上つた光景は濠洲の羊飼業の所であつて、千九百十四年以前の狀態を説明したものであつた。寫眞は次から次へと急轉した。講堂作業管理の教師は少しも説明を試みず、又、生徒も何等發問を試みなかつた。濠洲の羊飼業が如何に世界の商業と關係するかも、又はそれとアメリカに於ける羊飼業との比較も何等試みられなかつた。又、其處に出席したる兒童及びゲリーリ市の各家庭が慰みものとして羊と、或る程度に於て關係して居ることを示さんとする仕

組みにもなつて居らなかつた。羊の飼養に關する寫眞を續けざまに寫し出しさへすれば、それで兒童は此の生業を理解するに至るものと假定されたのである。種々の觀念を關係させて、それに依つて其の寫眞を解釋することが出来るものにとつてのみ、初めて寫眞は意味を持つといふことが閑却された譯である。

そこで、余は講堂若くは集會控所の課業が普通の學科の教師に依つて考案され、又、管理されるのでなければ、どうして眞の價值あるものと爲し得べきかを承知することが出来ない。一體、斯かる課業は普通學科教室の課業から自然に生れ出るものである。そして兒童の普通學科教室で學んだ事柄、學んだ經驗を、講堂の課業は補足し、擴張し、且つ豊富にすべきものである。それは又、組を成しての作業や、健全なる學校精神、即ち校風を形造る爲めの立派な吐け口ともなるものである。然し此の組作業や校風などは、兒童を知れる普通學科の教師が一番よく管理しても行けるし、又涵養することも出来るのである。唯だ、ゲリーリ學校に於ける講堂作業として非常に教育的價值を有するものと見えたのは、單に唱歌の課業丈けであつた。而

かもそれさへ、多少音樂の知識を有する學科教師が普通の教室で行つた方が却つて價值があつたらうと思はれる次第である。

ゲリーリ學校の工場作業の長短及び女生徒の料理並びに裁縫の課業

手工教練と家事科とを含めるゲリーリの工場作業の組織は、アメリカに於ける他の如何なる組織とも其の趣を異にして居るから、是非とも詳述するの必要があると思ふ。ゲリーリ學校では、此の作業を教授することがなく、唯だ工場を設けた丈で、その世話は職工に一任して置くのである。第五級以上の生徒は助手又は徒弟として工場に赴くのである。而して、職工の目的は、教育課が規定したる或る有用なる生産を出すといふことに在る。従つて教師としての仕事は單に副業にしか過ぎない。彼れの仕事の多くは、生徒即ち徒弟が一緒に傍に居らない時に爲されるのである。工場には造塑工場も、鍛鐵工場も、機械工場も、指物工場も、印刷工場も、靴修理工場もある。そこで、生徒は或る多くの週の間、毎日一時間、此等の工場の一つに行

くことが出来る。それが濟むと今度は或る他の工場に入つて作業することが出来る。若し生徒が特に或る一種の作業に興味を覺えれば、彼はそれに特別の注意を傾け、専門的に遣ふことを許されるのであるが、反對に若し生徒が總べての工場を好まぬならば、彼は全然それを素通りしてもよいといふことにならうと考へる。そこで、彼は多方面の作業を淺渡りする丈で、自分の好む作業を選択する機會がない譯である。これはそれでよいとしたところで、彼は自分にとつて役に立つまじき此の淺薄な知識で終へて了ふかも知れない。

若しも學校で手先きの仕事を教へる第一の目的が五個乃至六個の重なる基礎的工場作業を一通り教へるといふことに在るのならば、ゲリーリ式は結構である。然し、もしも其の主眼點が生徒に精確と忍耐とを教へ込み、その上に幾分でも實地作業の熟練技能を授けるといふに在るのならば、ゲリーリ式は駄目である。

次に、女生徒の作業は、男生徒のそれよりも一層不十分である。理論上は、女生徒も其の好むところの殆ど如何なる工場作業も取ることが出来るが、實際の上では

女生徒の作業は料理及び裁縫に限られて居る。その料理科に於ても、余の實地見たところでは、晝食部室に關係した事柄以上には何等教授さるゝところがなかつた。成る程、これは實際的であり、實用的ではあるが、然し、其の範圍が頗る狭く、且つ科學的方面に於いては頗る不足である。余は又、非常に立派な裁縫の課業も見だが、其の課程期間は短く、且つ隨意科であつて、それに第二級乃至三級の生徒にのみ授けて居ることが分つたのである。そこで、或る女生徒はゲトリリ學校期間に可成り裁縫の知識を得ることであらうが、然し同時に又、或る生徒はその科目を好まずとすれば、學校期間を通じて、どうしてボタンを縫ひ付けるかさへも知らずに過ぎる結果とならうと思はれる次第である。加奈陀のオッタワで立案されたる裁縫の課程は如何なる女生徒にも必修的のものであつて、一年四十週間、毎週一時間の課業を行ひ、第三級から始めて卒業まで續けるのであるが、これはゲトリリ學校に於て此の科目を認める少くとも十倍丈け多く尊重するのである。或はゲトリリ式が正しくて、オッタワの遣り方が間違つて居るかも知れないが、然し、加奈陀では苟くも學校を

通過する如何なる女兒にも實際に料理及び裁縫を教へて居るが、ゲトリリの學校では女生徒の四分の三丈けが單に此の二科を弄んで居るに過ぎぬといふ事實は、到底争ふべからざるところである。

運動及び體育は賞讃に値し又圖書館利用は相當の成功を示す

次に、ゲトリリ學校には、余の未だ嘗て見たことのない廣大な、そして設備完全なる運動場がある。余のゲトリリ學校を訪問したのは、十二月の初めであつたが、運動場は絶えず使用されて居つたのは如何にも羨ましかつた。學校當事者が、運動並に體育に對して斯かる施設を爲して居るのは、如何に賞め立て、も足らぬ程である。男生並びに女生の爲めの體操場は何れも廣くて、管理が行き届いて居る。此等の科目の教授者は、一般に其の課業が優秀であるから、此の點は大に賞讃に値ひするものと考へられる次第である。

最後に、ゲトリリで學校と公立圖書館とが互に聯絡をとつて協働して居るのは、如

何にも結構なことであつて、此の案は、アメリカの各都市で模倣したならば、必ず有益な結果を生ずることであらう。或る學校は中央圖書館に接近して居るので、其處の生徒等は圖書館の讀書室をば、さながら自分等の學校の學科教室のやうに殆ど樂樂と使用し得る譯である。丁度余の訪問した時はゲーリリで一番大きな學校に向ひ合つて、市の圖書館課では、其の附近區域の人々の爲めにとつて一つの分館を完成したばかりの時であつた。然し、此の分館は、附近區域の人々の爲めとは言ふものの、特に學校の要求に應ずる爲めのものである。今一つの大きな學校内に、市の圖書館課は普通の圖書館分館を開いて居るが、此處も矢張り第一番に學校の要求といふことを願慮してのことである。總べて此等のゲーリリ諸學校では、生徒等は圖書館作業の爲めに規定の時間を持つて居る。唯だ一つ缺點と思はれるのは、學科の教師が全然生徒に附添ふやうな規定になつて居らぬといふことである。それでも、文學や、歴史や、地理の教師が生徒に向つて、正規の學科時間に教へられた課業を、圖書館作業の間に補足し得るやうに色々と示教して居るのを目撃したのである。

附 録

ゲーリリ學校經費配當諸表

(自千九百十四年八月一日至千九百十五年七月三十一日)

目 次

- | | |
|-----------------|------------|
| 一 正規開校經費 | 二 土曜學校經費 |
| 三 夏季學校經費 | 四 日曜學校經費 |
| 五 夜學校經費 | 六 一年間生徒一人割 |
| 七 在籍生徒數及教師の平均俸給 | |
| 八 經費總計 | |

土曜學校 (一年十ヶ月毎土曜日開校一日八時間)

學校	エマーソン	フレーザー	ジェファーソン	諸學校
教授費	1,782.20	2,721.57	860.28	6,909.52
運用費	1,713.63	1,690.83	344.65	4,332.31

夏季學校 (二ヶ月開校)

學校	エマーソン	フレーザー	ジェファーソン	諸學校
I 教授費				
(1) 監督者及び校長の俸給	831.56	1,349.65	543.75	3,375.20
(2) 教師の俸給	4,213.63	3,678.08	779.58	10,602.91
(3) 支給品費	38.61	33.30	30.50	114.31
教授費合計	5,083.80	5,061.03	1,353.83	14,092.42
II 運用費				
(1) 學校番の賃銀	1,317.98	1,542.37	251.03	3,424.34
(2) 燃料其他	794.37	1,308.42	131.25	2,421.95
運用費合計	2,112.35	2,850.79	382.28	5,846.29
(3) 維持費	1,149.41	689.79	1,682.55	4,165.90

正規開校 (一年十ヶ月、一週五日間、一日八時間)

諸學校並に生徒數	エマーソン スクール (895人)	フレーザー スクール (1,847人)	ジェファーソン スクール (764人)	諸學校 (4,789人)
I 教授費				
(1) 監督者並に校長の俸給及び諸雜費	2,750.19	4,189.95	2,016.60	13,745.75
(2) 教師の俸給	27,954.77	46,373.36	16,713.70	113,533.24
(3) 支給品費	854.66	758.58	367.00	2,660.09
教授費合計	31,559.62	51,321.89	19,097.30	129,939.08
II 運用及び維持費				
(1) 學校番の賃銀	3,908.80	4,936.02	1,131.11	12,203.15
(2) 燃料・給水・點燈支給費	4,815.03	5,234.70	1,205.11	13,799.49
運用費合計	8,723.83	10,170.72	2,336.22	26,002.62
(3) 維持費	7,420.40	6,050.67	7,418.36*	26,574.62

*新設の發熱裝置費を含む。

在校生徒數及教師の平均俸給

學 校	在籍數	平均一日出席數	教師數	平均俸給	教師一人割生徒數
エマーソン……	895	769.80	31	915.78	27.56
フレール……	1,847	1,591.06	57	813.56	31.50
ジェファーソン……	764	661.70	22	759.71	33.50
諸學校……	4,789	4,043.98	142	802.59	33.70
夏季學校……	1,700				
夜學校……	182.348*				

*夜學生の時間數

經費總計 (十二ヶ月間總ての活動)

—(正規、土曜、日曜、夏季、夜學)—

教授費……	169,703.83
運用費……	43,855.93
維持費……	30,740.52
經常費總高……	244,300.28
經費合計……	362,325.73

日曜學校 (每週日曜日四時間開校)

學 校	エマーソン	フレール	諸學校
教師の俸給……	103.00	128.00	231.00
運用費……	954.56	847.60	1,802.16

夜學校 (一年十ヶ月每週五夜二時間宛開校)

學 校	エマーソン	フレール	諸學校
監督者及校長差給……	1,091.07	1,731.45	3,813.24
教師俸給……	5,112.89	5,828.00	13,675.73
支給品費……	340.54	471.68	1,042.84
教授費合計……	6,544.50	8,031.13	18,531.81
運用費……	2,283.91	2,392.68	5,872.55

一年間生徒一人割 (十二ヶ月、總ての活動に對して)

學 校	エマーソン	フレール	ジェファーソン	諸學校
教授費一人割……	35.26	27.79	25.00	27.13
運用費……	9.75	5.50	3.06	5.43
維持費……	8.29	3.27	9.71	5.55
經常費合計……	53.30	36.56	37.77	38.11
永久改善費……	11.43	7.81	14.43	10.88
總計……	64.73	44.37	52.20	48.99
一般管理費……	—	—	—	3.54
其他の費用……	—	—	—	7.75
補助事務費……	—	—	—	1.02

ゲリ學校の實際終

大正十年五月三日印刷
大正十年五月六日發行

リゲ學校の實際
附 奥



著者檢印

著者 田 制 佐 重
發行者 合名會社 弘道館
印刷者 渡邊 八太郎
印刷所 日清印刷株式會社

右代表者

田 制 佐 重
合名會社 弘道館
辻 本 卯 藏
東京市神田區北區保町十一番地
渡邊 八太郎
東京市牛込區淺町七番地
日清印刷株式會社
東京市牛込區櫻町七番地

正價金參圓貳拾錢

發兌元 東京市神田區北區保町十一番地 弘道會社 弘道館

大正十二年二月改正

發行圖書目錄

合名會社

弘道館

東京市神田區北神保町十一番地

電話九段二五三番

振替口座東京一八五番

弘道館出版書目

東京帝國大學文科大學教授
文學博士 井上哲次郎先生著
倫理と教育

東京帝國大學文科大學教授
文學博士 中島力造先生著
教育的倫理學講義增訂

東京帝國大學文科大學教授
文學博士 吉田熊次先生著
教育的倫理學增訂

文學博士 井上哲次郎先生主幹
東亞協會編輯 纂
倫理研究

鹿兒島高等農林學校校長
文學博士 玉利喜造先生著
實用倫理

東大文科大學倫理研究會編纂
現代倫理思潮

文學士 北澤定吉先生著
倫理學史綱
(附錄倫理學者年表)

東京帝國大學文科大學助教授
文學士 深澤安文先生著
倫理と國民道德

◎◎洋裝 價金壹圓八拾錢製
◎◎正 價金壹圓二拾錢製

◎◎洋裝 價金壹圓二拾錢製
◎◎正 價金壹圓二拾錢製

◎◎洋裝 價金壹圓二拾錢製
◎◎正 價金壹圓二拾錢製

◎◎洋裝 價金壹圓二拾錢製
◎◎正 價金壹圓二拾錢製

◎◎洋裝 價金壹圓二拾錢製
◎◎正 價金壹圓二拾錢製

◎◎洋裝 價金壹圓二拾錢製
◎◎正 價金壹圓二拾錢製

◎◎洋裝 價金壹圓二拾錢製
◎◎正 價金壹圓二拾錢製

◎◎洋裝 價金壹圓二拾錢製
◎◎正 價金壹圓二拾錢製

弘道館出版書目

文學博士 遠藤隆吉先生著 東洋倫理學
 東京帝國大學文科大學教授 哲學と宗教
 文學博士 井上哲次郎先生著
 文學士 北澤定吉先生共編 哲學 汎論
 早稻田文學士 宮地猛男先生著
 東京帝國大學文科大學教授 社會と道德
 文學博士 井上哲次郎先生著
 京都帝國大學文科大學教授 人格の哲學と超人格の哲學
 文學博士 朝永三十郎先生著
 文學士 久保良英先生共譯 サレムル 哲學 概論
 文學士 宇井伯壽先生著
 文學士 北澤定吉先生著 哲學史綱
 名教中學校長 龜谷聖醫先生著 哲學より宗教へ
 京都帝國大學文科大學教授 現代に 理想主義の哲學
 文學博士 西田幾多郎先生著

◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢

弘道館出版書目

文學博士 中島力造先生 精神生活の哲學
 得能文先生 譯
 東京帝國大學文科大學教授 我が國民道德
 文學博士 吉田熊次先生著
 東京帝國大學文科大學教授 國民道德の教養
 文學博士 吉田熊次先生著
 東京帝國大學文科大學教授 國民道德要義
 文學士 深作安文先生著
 京都帝國大學文科大學教授 主觀道德學要旨
 文學博士 藤井健治郎先生著
 東京外國語學校教授 歐米道德教育の趨勢
 文學士 島本愛之助先生 譯
 (スヒラ) 教授 原著
 京都帝國大學文科大學教授 善の研究
 文學博士 西田幾多郎先生著
 前文部會普通學務局 普通教育禮儀教育論
 關士未之助先生 著に於ける
 東京帝國大學文科大學教授 現代思潮十講
 文學士 桑木嚴實先生著

◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢
 ◎洋裝金菊列上 送料 十二錢

弘道館出版書目

東京帝國大學文部大學教授 實験心理學十講
 文學博士 松本亦太郎先生著
 東京帝國大學心理學教室編纂 實験心理寫真帖
 文學博士 福來友吉先生譯
 (C) I. A. ス博士原著) 教育心理學講義
 文學博士 元良勇次郎先生著 心理學綱要
 米國哲學博士アービンケンガ博士原著
 池兒島縣師範學校教諭 機能兒童心理學
 池上弘先生譯 主義
 元良博士と現代心理學
 學術講演會編輯
 京都帝國大學文部大學講師 民族心理講話
 米田庄太郎先生著
 東大文部大學國學院大學講師 最新論理學綱要
 文學士 紀平正美先生著
 文學士 入澤宗壽先生著 教育的論理學

洋裝菊判五十五錢 挿入圖版五十五錢
 正價金四圓五拾錢 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢

弘道館出版書目

東京帝國大學文部大學教授 系統的教育學
 文學博士 吉田熊次先生著
 東京帝國大學文部大學教授 訓練論
 文學博士 吉田熊次先生著
 奈良女子高等師範學校訓導 清水其吾先生共著
 奈良女子高等師範學校訓導 齋藤清平先生共著
 分團教授の實際
 山本良吉先生著 發動主義の教育
 關西中學長 國民教育之精神
 山内佐太郎先生著
 文部省督學官 教育教授の新潮
 橫山榮次先生著
 文學士入澤宗壽先生著 輓近の教育思潮
 文學士入澤宗壽先生著 現今の教育
 橫濱市視學 澤正先生著 再學級經營

洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢
 洋裝菊判五拾錢 正價金四圓五拾錢
 送料十二錢

弘道館出版書目

橫山榮次先生序 佐々木吉三郎先生序
 新免 恭 先生 著 感覺的**指算教授法**一名天然計數器
指出主義的指算教授法
 學習院教授佐野正造先生 著 **尋常小學算術教授書**全六冊
 東京高等師範千賀衛先生 共著 **尋常小學算術教授書**全六冊
 東北帝國大學理科大學教授 林鶴二先生著 **初等幾何學の體裁**
 東京高等師範學校教授 保科孝一先生著 **國語教育及教授の新潮**
 靜岡縣師範學校教授 津田信雄先生著 **體操教授の新研究**
基礎としたる學校教育を
 奈良女子高等師範學校訓導 久住 榮一先生 共著 **書翰文教授の新研究**
 花田 甚五郎先生 共著 **實驗各科教授法真髓**
 三重縣師範學校編纂 **實驗各科教授法真髓**
 文部省 著 **日本教育史**

弘道館出版書目

文學博士 吉田熊次先生序 三阿山師範學校附屬小學校 編纂 **修身教授資料**
 文學士 入澤宗壽先生著 **近代教育思想史**
 醫學博士 笠原道夫先生著 **日米教育時言**
 醫學博士 笠原道夫先生著 **青年教育論**
 京都帝國大學醫科大學助教授 異常兒教育の理論と實際
 兵庫縣姫路師範學校校長 野口 援太郎先生 著 **學校教育**
事實に基きたる
 原田 義藏先生 著 **學校教育**
 東京高等師範學校訓導 岡千賀衛先生 著 **新教授法**
 神野淺治郎先生 著 **綴り方教授の新研究**
兒童理科教授の準備と其實際
 廣島高等師範學校訓導 久芳龍藏先生 著 **綴り方教授の新研究**

弘道館出版書目

東京高等師範學校訓導 綴り方教授之根柢

◎洋裝 四六判上製 九拾錢 送料八錢

廣島高等師範學校訓導 久芳龍藏先生共著 花田甚五郎先生著

讀み方教授

◎洋裝 菊判上製 十二拾錢 送料十二錢

文學博士 小西重直先生校 勤勞學校の意義及其經營

◎洋裝 菊判上製 十二拾錢 送料十二錢

關西 中野學長 米國教育概觀

◎洋裝 菊判上製 十二拾錢 送料十二錢

東京高等師範學校教授 實験圖畫教授法

◎洋裝 菊判上製 十二拾錢 送料十二錢

東京帝國大學農科大學教授 林學博士 本多靜六先生校訂 安藤時雄先生著

林學講義

◎洋裝 菊判上製 十二拾錢 送料十二錢

東京帝國大學農科大學教授 進化動物學綱要

◎洋裝 菊判上製 十二拾錢 送料十二錢

神田正徳先生共著 實験植物學講義

◎洋裝 菊判上製 十二拾錢 送料十二錢

弘道館出版書目

鹿兒島高等農林學校教授 新編肥料學全書

◎洋裝 菊判上製全一冊 十二拾錢 送料十二錢

鹿兒島高等農林學校教授 訂正最新肥料學

◎洋裝 菊判上製全一冊 十二拾錢 送料十二錢

鹿兒島高等農林學校教授 實用肥料便覽

◎洋裝 菊判上製全一冊 十二拾錢 送料十二錢

京都帝國大學工科大学助教授 日本礦物各論

◎洋裝 菊判上製全一冊 十二拾錢 送料十二錢

文部省督學官兼農科大學教授 農業教育及農業教授法

◎洋裝 菊判上製全一冊 十二拾錢 送料十二錢

文部省督學官兼農科大學教授 農業學校の組織及經營

◎洋裝 菊判上製全一冊 十二拾錢 送料十二錢

文部省督學官兼農科大學教授 農藝化學講義

◎洋裝 菊判上製全一冊 十二拾錢 送料十二錢

文部省督學官兼農科大學教授 食物講話

◎洋裝 菊判上製全一冊 十二拾錢 送料十二錢

農學博士 澤村眞先生著 安價保健食物

◎洋裝 菊判上製全一冊 十二拾錢 送料十二錢

弘道館出版書目

東京高等工業學校教授 實用機械 關口 八重吉先生著 工學叢書 罐 ◎◎◎ 正價各冊金三四五十二錢 送料各冊十二錢	東京高等工業學校教授 實用機械 關口 八重吉先生著 工學叢書 機上卷 ◎◎ 正價金三圓五十錢 送料十一錢	東京高等工業學校教授 工作機械增訂 關口 八重吉先生著 ◎◎ 正價金六圓 送料十六錢	東京高等工業學校教授 工人寶典 小林豐造先生外拾查教授編纂 ◎◎ 正價金壹圓五拾錢 送料八錢	京都帝國大學理科大學教授 科學と化學工業 理學博士 大幸 勇吉先生著 ◎◎ 正價金六圓 送料八錢	京都帝國大學工科大學教授 鐵筋コンクリート講話 工學博士 日比 忠彦先生著 ◎◎ 正價金八圓 送料八錢	東京帝國大學理科大學教授 美しき光波 理學博士 石原 純先生著 叢書 ◎◎◎ 正價金壹圓五拾錢 送料八錢	東京帝國大學理科大學教授 音響と音樂 理學博士 田中 正平先生校理學 理學博士 田邊 尚雄先生著 叢書 ◎◎◎ 正價金九拾五錢 送料七錢
---	---	--	--	--	---	--	---

弘道館出版書目

京都帝國大學法科大學教授 日本經濟政策論增訂 法學博士 神戶 正雄先生著 ◎◎ 正價金壹圓十二錢 送料二錢	京都帝國大學法科大學教授 日本經濟論 法學博士 神戶 正雄先生著 ◎◎ 正價金壹圓參拾錢 送料十錢	文學士 有馬 祐政先生著 商道 ◎◎ 正價金壹圓 送料六錢	熊本高等工業學校教授 現代生活の危機及救濟 高橋 正熊先生著 ◎◎ 正價金壹圓 送料六錢	帝國教育會編纂 谷千城子、井上博士、三上博士、三宅博士、大槻博士其他の講述 六 大 先 哲 ◎◎ 正價金壹圓 送料八錢	東京帝國大學文科大學講師 トルストイの藝術觀 文學士 松浦 一先生著 ◎◎ 正價金壹圓 送料八錢	三上博士 田所 文部次官序 日本女性史 久保田 辰彦先生著 ◎◎ 正價金壹圓 送料八錢	東亞協會編纂 現代女性觀 ◎◎ 正價金壹圓 送料八錢	文學士 高桑胸吉先生著 日本通史 ◎◎ 正價金壹圓 送料八錢
---	---	--	--	--	--	---	-------------------------------------	---

弘道館出版書目

文學博士 高桑駒吉先生著	文學士 高桑駒吉先生著	文學士 高桑駒吉先生著	文學博士 重田定一先生著	久我侯爵東久世伯爵邸字家庭 三上博士芳賀博士編	奈良縣廳編纂	文學博士 金澤庄三郎先生著	文學博士 男爵加藤弘之先生著	鎌倉建長寺管長 釋宗演師著
日本れきし増訂	東洋れきし	西洋れきし	史話	今日の歴史	大和史料	言語の研究と古代の文化	學說乞丐袋	筌蹄錄
◎洋裝金菊列上拾錢製 送料十二錢	◎洋裝金菊列上拾錢製 送料八錢	◎洋裝金菊列上拾錢製 送料八錢	◎洋裝金菊列上拾錢製 送料十六錢	◎各冊洋裝金菊列上拾錢製 ◎各冊定價金四拾錢 ◎各冊定價金十二錢	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製

一一一

弘道館出版書目

梅園會編纂	竹越三又先生 月水博士序 山田毅一先生著	帝國教育會編纂	東京日々新聞記者通俗 技元長夫先生編講話	京都帝國大學醫科大學教授 醫學博士松浦有志太郎先生述	東京日々新聞記者通俗 枝元長夫先生編講話	東京高等師範學校教授 巨堀章三郎先生著	農學博士 新渡戸稻造先生著
梅園全集	南洋行脚誌	吉田松陰	四季の衛生	花柳病講話	花鳥風月	少年鑑	歸雁の蘆
◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製	◎洋裝金菊列上拾錢製 ◎洋裝金菊列上拾錢製

一一二

弘道館出版書目

杉山其日庵主著 青年訓
 日本女子大學教授 歐米最近女子運動と遊戲
 白井規矩郎先生著 歐米最近教育施設露天學校
 エイヤリス氏原著 歐米最近教育施設露天學校
 青池中治郎先生譯 歐米最近教育施設露天學校
 京都帝國大學文部科學部教授 歐米最近世史十講
 文學博士原勝郎先生著 歐米最近世史十講
 福來博士校閱教育 俚諺心理百話
 浦谷甫水先生著 俚諺心理百話
 京都帝國大學文部科學部教授 叙述と迷信
 文學博士野上俊夫先生著 叙述と迷信
 京都帝國大學理工科大學教授 水
 文學博士金子登先生著 水

通俗學藝文庫

本書は、文部省通俗教育圖書として認定相成りたるものにして、一般社會の好讀物たるは勿論、亦専門々々の人々に取りても、極めて簡便なる良書考書たりと謂ふべし。

各册定價金拾貳錢 同送料各二錢
 ◎洋裝金菊列上 全一冊 送料十二錢
 ◎洋裝金菊列上 全一冊 送料十二錢
 ◎洋裝金菊列上 全一冊 送料十二錢
 ◎洋裝金菊列上 全一冊 送料十二錢
 ◎洋裝金菊列上 全一冊 送料十二錢
 ◎洋裝金菊列上 全一冊 送料十二錢
 ◎洋裝金菊列上 全一冊 送料十二錢
 ◎洋裝金菊列上 全一冊 送料十二錢
 ◎洋裝金菊列上 全一冊 送料十二錢
 ◎洋裝金菊列上 全一冊 送料十二錢

弘道館出版書目

(定認書圖育教俗通省部文)

第一編 理學博士 長岡半太郎先生著 ◎現今の電氣學 全一冊
 醫學博士 藤浪 鑑先生著 ◎疾病の原因 全一冊
 醫學博士 和辻 春次先生著 ◎音樂才能と遺傳 全一冊
 法學博士 神戸 正雄先生著 ◎放資の話 全一冊
 法學博士 毛戸 勝元先生著 ◎株式會社の話 全一冊
 法學博士 中島 玉吉先生著 ◎家督相續の話 全一冊

弘道館出版書目

宮城縣師範學校主事 神野淺治郎先生著	理科家事教授の準備と其實際	◎洋裝 送料十八錢
金生喜造先生著	獨逸の公民教育	◎洋裝 送料四六判上製 金壹圓貳拾錢
東京帝國大學文科大學講師 文學博士加藤玄智先生著	我國體と神道	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓五拾錢
名教中學校長 龜谷聖馨先生著	永遠の平和	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓五拾錢
文學士安原清輔先生著	神社と宗教	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓貳拾錢
文學博士建部遜吾先生著	國體國是及現時の思想問題	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓貳拾錢
農學博士橫井時敬氏序香月 農學博士加藤茂包氏喜六著	日本食糧作物全書	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓貳拾錢

弘道館出版書目

文學博士 中島力造先生校閱 文學士 豐島要三郎先生著	實踐倫理學	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓貳拾錢
文學博士 遠藤隆吉先生著	東洋倫理研究	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓貳拾錢
東亞協會編	女大學の研究	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓貳拾錢
東京帝國大學文科大學教授 文學博士井上哲次郎先生著	教育と修養	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓貳拾錢
樞密顧問官 金子聖太郎先生著	日本教育之將來 <small>(文部省通俗教育圖書認定)</small>	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓貳拾錢
米國兒童研究會會長パーカー博士著 教育學博士西山慈治先生譯	歐米教育大家意見	◎洋裝 送料四六判上製 金貳圓貳拾錢
山内佐太郎先生著	米國教育概觀	◎洋裝 送料四六判上製 金壹圓八拾錢
學習院教授 佐野正造先生著	最新手工教授法	◎洋裝 送料四六判上製 金壹圓
文學士北澤定吉先生 文學士吉田圭先生 文學士西山哲次先生 文學士西先生共譯	最新實際主義	◎洋裝 送料四六判上製 金壹圓

弘道館發行圖書目錄

弘道館出版書目

福岡縣小倉師範學校長 織田勝馬先生共著 福岡縣嘉穂高等女學校長 白土千秋先生著	文學博士 井上圓了先生著	文學博士 井上哲次郎先生主幹 東亞協會文藝部編纂	法學士 笹川 溧先生著	東京帝國大學文科大学教授 文學博士 姉崎正治先生著	文學博士 芳賀矢一先生主幹 東亞協會文藝部編纂	東京帝國大學文科大学教授 文學博士 加藤玄智先生著	文學士 北澤定吉先生著	東京高等師範學校教授 直理 章三郎先生著
劣等生救濟の 原理 <small>其並の</small> 方法	哲學新案	國民生活と宗教	日本の將來	國運と信仰	曉 藹 集	釋迦牟尼佛 リ見たる	偉 人 耶 蘇	少年鑑
◎◎洋裝菊判上製全十 送正價料金十壹圓七 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全二 送正價料金十壹圓 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金六圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册

弘道館出版書目

杉山 其日庵主人著	東京文科大学助教授 文學士 保科孝一先生著	東京文科大学助教授 文學士 保科孝一先生著	東京高等師範學校教授 文學士 保科孝一先生著	吉田 信 太先生共著	東北大學理科大學教授 文學博士 林 鶴一先生著	櫻井、寺野、新波、末廣、今 岡、五博士外九學士共同編纂	大阪市立工業學校教授 齋 藤 正 次先生著	學習院教授東京女子高師教授 文學士 尾上八郎先生著
青 年 訓	讀 書 論	言語學講話 <small>(訂正版)</small>	假名遣要義	唱歌遊戲教授書	初等幾何學の體裁	日本近世造船史	鑛物工業試驗法	永 日
◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册	◎◎洋裝菊判上製全十一 送正價料金八圓十一 錢錢册

弘道館出版書目

學習院教授 文學士 藤澤 周次先生著 戲新婦人 四六判洋裝全一册 正價金十八錢

井上、元良文學博士序文 教育學博士 西山慈治先生編 日本家庭辭書 洋裝判全一册 正價金十四錢

東京女子高等師範學校教授 東基吉先生著 新育兒日誌 洋裝判全一册 正價金六錢

廣島高等師範學校教諭 藤井 盧逸先生外三先生共著 綴り方文例 洋裝判假製全十册 二年前後期各十二册 四年前後期各十五册 六年前後期各十五册 送料各册 四十五錢

福岡縣嘉穂高等女學校校長 白土千秋先生共著 小算術教材資料 菊判洋裝上製全二册 正價金十錢

福岡縣小倉師範學校教諭 阿部清見先生 藝術觀 四六判洋裝全一册 正價金六錢

東京帝國大學文科大學講師 文學士 松浦 一先先生著 トルス 伯 新編國民地圖 菊判洋裝上製全一册 正價金十錢

文學博士 源 秀四郎先生著

弘道館出版書目

東京府青山師範學校教諭 岡田 藤十郎先生著 能率珠算教授法 菊判洋裝全一册 正價金十錢

慶應大學教授 有馬祐政共編 學習院教授 鳥野幸次共編 賢哲傳(全上下) 各各洋裝全一册 正價金十錢

文學博士 金澤庄二郎先生著 福原 卓爾先生著 證例徒然草詳解 洋裝全一册 正價金十錢

奈良女子高師訓導 志垣寛著 教員物語 洋裝全一册 正價金十錢

文學士 森田 草平先生著 大戰と女 洋裝全一册 正價金十錢

東京高等商業學校教授 星野 太郎先生共著 最新小學商業教本 洋裝各册上下全二册 正價金三十五錢

星野 太郎先生共著 最新小學商業簿記教本 洋裝各册全一册 正價金二十八錢

稻葉 鶴次先生 最新小學商業算術 洋裝判全一册 正價金四錢

文部省實業學務局 泉 屋 清二 耶著 最新商業算術 洋裝判全一册 正價金八錢

福井縣敦賀商業學校校長 稻葉 鶴次先生著 最新小學商業教科書 洋裝判全一册 正價金三十五錢

弘道館出版書目

文部省實業學務局 泉屋清二郎 共著 元文部省實業學校局 宇野三郎	新實業算術書	◎◎洋裝菊列上下全一册 ◎◎正價金四拾五錢 ◎◎送料金十錢
泉屋清二郎先生共著 宇野三郎先生共著	明治國民讀本	◎◎洋裝菊列上中下 ◎◎正價金五拾二錢 ◎◎送料金十錢
泉屋清二郎先生共著 宇野三郎先生共著	高等公民讀本	◎◎洋裝菊列全一册 ◎◎正價金五拾六錢 ◎◎送料金十錢
長野蠶絲針塚長太郎先生 島根縣立農林學校教諭矢田鶴之介 共著	補習新讀本	◎◎洋裝菊列全三册 ◎◎正價金四拾五錢 ◎◎送料金八錢
東京高等工業學校教授村上通先生 東京高等工業學校教授飯塚正市 共著	帝國補習讀本	◎◎洋裝菊列全二册 ◎◎正價金五拾二錢 ◎◎送料金十錢
東京高等工業學校飯塚正市先生共著	大正國語讀本	◎◎洋裝菊列前編 ◎◎正價金七十六錢 ◎◎送料金十錢
宇野三郎先生著	最新工業算術書	◎◎洋裝菊列全一册 ◎◎正價金八拾五錢 ◎◎送料金八錢
文部省普通王井廣平先生共著 學務局員村松卯助先生共著	青年讀本	◎◎洋裝菊列全一册 ◎◎正價金六拾五錢 ◎◎送料金八錢
東京女子高等師範校長 高師校長湯原元一先生共著 藤原喜代造	青年補習讀本	◎◎洋裝菊列上下二册 ◎◎正價金八拾五錢 ◎◎送料金八錢

弘道館出版書目

宮城縣師範學校教諭兼主事 神野淺次郎先生著	高等理科教授の準備と實際	◎◎洋裝菊列四十五册 ◎◎正價金四拾六錢 ◎◎送料金十錢
青山師範教諭 岡田藤十郎先生著	珠算教授法	◎◎洋裝菊列上 ◎◎正價金十二錢 ◎◎送料金十錢
文部省圖書官 文學士八波則吉先生著	國語讀本要義	◎◎洋裝菊列十册 ◎◎正價金四拾五錢 ◎◎送料金十錢
高等師範講教會 山内藤馬著	話し方と聞せ方	◎◎洋裝菊列十册 ◎◎正價金四拾五錢 ◎◎送料金十錢
東京高師訓導 水木椿先生著	算術應用問題教授	◎◎洋裝菊列四上 ◎◎正價金十二錢 ◎◎送料金十錢
栃木師範主事菅谷徳次郎共著 栃木師範訓導相良留三郎共著	修正理科教授細案	◎◎洋裝菊列全一册 ◎◎正價金十二錢 ◎◎送料金十錢
東京女子高等師範訓導 山本幸雄先生著	地理教授の實際案	◎◎洋裝菊列全一册 ◎◎正價金十二錢 ◎◎送料金十錢
東京高師範訓導 阿部七五三吉先生著	手工教授の實際案	◎◎洋裝菊列全一册 ◎◎正價金十二錢 ◎◎送料金十錢
東京女子高等師範訓導 藤五代篤篤先生著	畫帖教授の實際案	◎◎洋裝菊列全一册 ◎◎正價金十二錢 ◎◎送料金十錢

弘道館出版書目

東京高等師範訓練 阿部 雄 先生著 中心案家事教授の實際案 ◎洋裝四六判上製一冊 ◎正價金 八圓三十錢	東京女子高等師範訓練 小松 ひろ子 先生著 中心案唱歌教授の實際案 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 八圓五十錢	東京女子高等師範訓練 渡邊 千代吉 先生著 中心案書方教授の實際案 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 八圓五十錢	東京高等師範訓練 阿部 潔 先生著 中心案修身教授の實際案 ◎洋裝四六判上下二冊 ◎正價金 八圓五十錢	東京高等師範訓練 小林 佐源治 先生著 中心案讀方教授の實際案 ◎洋裝四六判上下二冊 ◎正價金 八圓五十錢	東京高等師範訓練 高橋喜藤治 先生著 中心案算術教授の實際案 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 八圓五十錢	東京高等師範訓練 山田 義直 先生著 中心案歷史教授の實際案 ◎洋裝四六判上一冊 ◎正價金 八圓五十錢	東京高等師範訓練 飯田 恒作 先生著 中心案綴方教授の實際案 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 八圓五十錢	東京高等師範訓練 水木 榊 先生著 中心案理科教授の實際案 ◎洋裝四六判上製三冊 ◎正價金 八圓三十錢
---	--	--	---	---	---	---	---	---

弘道館出版書目

東京高等師範訓練 村野 幸次郎 先生著 中心案體操教授 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢	文學士 有馬 祐政 著 商 人 道 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢	浦谷 熊吉 先生著 教育 俚諺心理百話 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢	大學院 一理 三 著 新 實 驗 化 學 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢	文部省督學官生駒 萬治 共著 靜岡山中學教諭武田登三 加味せる 幾何學 教授法及其實際 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢	奈良女子高等師範校教授 文學士 松濤 泰 著 訓育の根本主義 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢	東京女子高等師範教授文部省體操檢定委員 二階堂とく 著 模擬體操の實際 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢	東京女子高等師範教授 藤五 代 策 著 新 畫帖の應用畫集 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢	千葉佐倉中學校教諭 武村 儀 三 共著 縣川 補習新算術書 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢	文部省囑託 久留島武彦 著 東京高等師範學校訓導 共著 帝國少年讀本 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢	東京高等師範學校訓導 飯田 恒作 著 話 し 方 教 授 ◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金 四圓三十錢
--	---	---	--	--	---	---	--	--	---	---

弘道館出版書目

森本正哲著	安價保健食物	◎正價金四拾六錢
慶應大學教授文學士 石馬祐政先生共編	義士傳	◎洋裝四六判上製 ◎定價金貳圓八拾錢 ◎送料金十二錢
文學士大場實治先生著	人口問題と食糧問題	◎洋裝菊判上製全一冊 ◎正價金六圓八拾錢
熊本高等工業學校 甲斐勝美先生共著	機械工業便覽	◎洋裝上製全一冊 ◎正價金十六錢
文學士 鳥野幸次共編	皇道	◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金二圓八十錢
同	世俗	◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金三圓五十錢
同	佛訓	◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金三圓五十錢
同	名歌詩集	◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金三圓五十錢
文學士野田美夫先生著	新時代の德育	◎洋裝四六判全一冊 ◎正價金三圓五十錢

弘道館出版書目

奈良女高師訓導 志垣宏三	寬著	尋一の教育	◎洋裝菊判上製一冊 ◎正價四圓五拾錢
廣島縣師範學校主事 千葉葉命	吉著	創造獨創力養成之實際	◎洋裝四六判上製一冊 ◎正價二圓八十錢
ジョンテユイ博士原著 田制佐重先生譯	譯	教育教授之改造	◎洋裝四六判上製一冊 ◎正價三圓五拾錢
學習院教授 山本良吉先生著	著	普通教育の根本改造	◎洋裝四六判上製一冊 ◎正價金十二錢
東京帝大文學部教授 入澤澤宗	著	歐米教育の新潮	◎洋裝四六判上製一冊 ◎正價金十二錢
日本大學日本中學校長 文學士 笹倉新治	著	教育勅語講義	◎菊判形全一冊 ◎正價金五拾錢
廣島高等師範學校教授 神田正	佛共著	實驗植物學講義	◎上卷全一冊 ◎正價金七圓五拾錢 ◎中卷全一冊 ◎正價金五圓五拾錢 ◎送料各冊二十四錢
神宮縣師範主事 神野淺次郎	佛共著	觀察植物學講義	◎上卷全一冊 ◎正價金七圓五拾錢 ◎中卷全一冊 ◎正價金五圓五拾錢 ◎送料各冊二十四錢
東京高師訓導 小林佐源	次著	教案國語讀本教授之實際	◎四六版上製上卷 ◎正價金貳拾二錢

弘道館出版書目

文學士 渡邊府三 新作 悲曲	田 制 佐 重編	池 田 小 菊 著	志 垣 氏 子 著	志 垣 寬 著	原 坦 誠 著	森 田 草 平 譯	黒 田 乙 吉 著
桔梗の朝露	式教育及教授法	僕には娶る妻がない	女教員物語	教員物語	基督と宗吾	大戦と女	惱める露西亞
◎◎ 四六判 額る美木 送料 十圓八錢	◎◎ 四六判 上製一 送料 十圓五拾錢	◎◎ 三六判 函入全一 送料 一圓五拾錢	◎◎ 三六判 函入全一 送料 一圓三拾錢	◎◎ 三六判 函入全一 送料 一圓三拾錢	◎◎ 四六判 全一 送料 一圓五拾錢	◎◎ 四六判 上製函入 送料 一圓五拾錢	◎◎ 四六判 函入全一 送料 一圓五拾錢

270
14

終